

氏名	ふりがな	所属名称	取組概要
浅尾 均	あさお ひとし	有限会社 浅尾計画事務所	全国各地における地域振興・観光振興・交流人口の増加などの取り組みについての課題、問題点、疑問に対するの解決策や、それを導き出すためのアイデアの提示、あるいは解決策を導き出すためのアドバイス、ワークショップの支援、コンサルティング、プランニングなどを仕事としています。 現在は、「インバウンド」、「新たな広域連携」、「人材育成」、「ニューツーリズム」などをテーマに、各地にて実践的な事業に関わっています。
朝廣 佳子	あさひろよしこ	株式会社読売奈良ライフ	奈良の新しい観光資源の創出に邁進し、なら燈花会、平城遷都祭、平城京天平祭などを立ち上げてきた。また、市民が創るまちづくりを主軸とし、ボランティアでイベントを行っている。
東 朋治	あずま ともはる	有限会社 協働研究所	阪神大震災で壊滅的な被害を被った神戸・新長田地区において、タウンマネージャーとして11年間商店街の復旧復興事業に取り組んできました。再開発エリアの商業ビルの管理運営やテナントリーシング、商店街および商業ビル活性化イベント、地域活性化を牽引するまちづくり会社(株神戸ながたTMO)の運営等を担ってきました。現在は(有)協働研究所に移り、商店街や中心市街地の活性化ビジョン策定、商業者リーダーの育成事業に加え、タウンマネージャーの育成や東日本大震災被災商業地域(岩手県宮古市中心市街地・岩手県釜石市鶴住居地区)の復旧復興事業に取り組んでいます。また、日頃からの備えとしてワークショップ等を通じて地域の安全・安心マップ作成にも各所で取り組んでいます。
安部 敏樹	あべ としき	一般社団法人リディラバ/株式会社Ridilover	<ul style="list-style-type: none"> ■社会課題・地域課題をテーマとしたスタディツアーを企画しあらたな市場を開拓。 ■被災地での教育旅行をとした復興支援(例:釜石での被災後初の100人規模での教育旅行など)。 ■安倍首相が座長を務める観光立国推進会議での「アクションプログラム2015」として政策化。“(11)国民の旅行振興に向けた意識醸成・環境整備”の項目において「若者に旅の意義や素晴らしさを伝える「若旅★授業」を地方で拡大するとともに、若者の関心が高い、エネルギーや地域医療など様々な社会テーマを扱ったツアー商品の造成を推進し、より多くの若者が旅に出るきっかけを創出する。【新規】という形で記載。 ■観光から移住定住・産業振興・事業承継・MICE誘致を一貫して実現(例えば林業のツアーを通して5人の事業承継・移住の実現など。これまで20人以上がツアーを通しての移住や2拠点居住を実現したと思われる)。 ■600人以上のボランティアマネジメントを通しての課題の洗い出し。 ■社会起業家の経営者向けカンファレンスR-SICを300人規模で3年連続開催。京都・つくばなどの地域開発に寄与。 ■東大の講義にて200人の学生に対し、ソーシャルビジネスのためのチームビルディングなど講義から30以上のプロジェクトを創出。講義をまとめた著作『いつかリーダーになる君たちへ』(日経BP)がAmazonで部門別1位を達成。 ■被災地の医療現場における鍼灸師などを含めた新たな医療チーム体制の構築と実施・ ■R-SICにおけるソーシャルビジネスのプログラム”CrossPoint”、観光片研修、青森県研修、スタディツアーなどを通して100地域150社以上のインキュベーション支援。 ■述べ20校以上の教育旅行の実施。 ■スタディツアーなどの事業を通して扱うテーマは「農・林・水産業」「環境」「医療・介護・福祉」「貧困」「地域活性化」「公共事業」など200弱。 ■東証一部上場企業なども含め企業の幹部研修や人事研修としての地域課題・社会課題の現場での研修事例も10以上 ■アカデミックなアクティブラーニング、ファシリテーションの講義などを東京大学などの大学教員から各地の教育委員会や校長向けに実施 <p>【リディラバの事業に関連するURL】 [Travel The Problem: スタディツアー専門の旅行サービス] https://traveltheproblem.com/ [TRAPRO: 社会問題の百科事典] http://www.trapro.jp/ [TRAPRO移住ロコミ: 地域の気になるロコミが集まるサイト] https://ju.trapro.jp/ [「社会起業」の最先端を知る]招待制カンファレンス: R-SIC(アール・シック) http://ridilover.jp/R-SIC/ [リディラバ(HP)] http://ridilover.jp/</p>
雨宮 洋司	あめみや ようじ	みなとガイド塾	<p>①富山新港を中心に付近の歴史あるみなとまちの現状と歴史の絵地図をそこに居住する市民とともに学んで、作成をし、散策、地域おこし、郷土学習等に役立てる取り組みをしている。</p> <p>②”みなとガイド塾”を立ち上げて、それらの絵地図を教材にして学ぶとともに、港背後地の企業・団体の訪問、北前船時代のみなとまちを歩いて歴史の痕跡を探しながら現状を知る、等を通して、この地への訪問者や家族などに説明(ガイド)出来るような学生・市民を育てる活動をしている。これはこれからの日本海側の新しいみなとまちづくりを考える契機にする配慮をしており、NPO法人水辺のまち新湊と組んで実施して継続性を意識している。</p>

氏名	ふりがな	所属名称	取組概要
飯田 一民	いいた かずたみ	有限会社 食創造さんだかん	<p><アドバイザー/伝承人としての派遣履歴他> 北檜山町・松前町・和寒町・下川町・長沼町・日高町・占冠村・小清水町・北海道商工会連合会講師・網走市・道南3町(松前・上ノ国・江差)広域連合・留萌支庁・空知支庁事業評価委員・全道市長会基調講演など</p> <p><アドバイザー/伝承人としての実施取組み> 下川エミュー肉燻製開発・松前町「あわびごはん」開発・瀬棚町海産加工品開発・その他商品名・デザイン等の創出・百貨店北海道物産展企画協力(三越・大丸・西武・丸井等) 「農家の友」「しゃりぱり」等に執筆「生産現場からの新しいビジネスチャンス」など道内各地域の道の駅再生活性化事業・地元ブランドの推進を手掛け「食」からの地域活性化を勧めている。 ※ 道の駅「ライスランドふかがわ」設置企画協力 ※ 道の駅「北前船松前」総合プロデュース 他 ※ 生産現場と都市部との協働事業として「北海道応援宣言プロジェクト!!」札幌の飲食店で毎月道内各地域の食事会を開催(総合企画監修) ※ 百貨店と協力して北海道地域・生産者の食材・加工品のトライアル販売を実施</p> <p><(有)食創造さんだかん概要> 1983年珈琲専門店サンダカンとして開店 1988年レストランサンダカンとして現地に新規移設開店 1993年全国北海道物産展へ参画、(株)三越・(株)大丸他 1999年食創造さんだかん工房として食肉加工工房を併設する 2003年深川市の委託を受け、「道の駅」内でレストラン運営</p> <p>2014年深川市ものづくり事業で「牛こら」「旨とん」の商標特許取得</p>
石崎 英治	いしざき ひではる	株式会社クイージ / NPO法人 伝統肉協会	<p>北海道新冠町、新得町及び島根県美郷町において、エゾシカやイノシシ等の野生鳥獣における生産工程のマネジメントや、農村地域における体験ツアー等の観光・交流の取組に携わる。 また、レストラン経営、イベントへの臨時出店、テレビ・ラジオ・新聞をはじめ各メディアへの出演、料理教室の実施等を通じて「野生鳥獣を食べる文化」の普及・啓発活動を精力的に展開。</p>
石山 純恵	いしやま すみえ	(株)クリフ	<p>地方銀行や総合病院での管理職研修などを行っています。講義をして「良かった」だけの研修ではなく見える研修、数値化する研修を企画実施しています。福島県を取り巻く状況で国際機関との会議の議事録作成や翻訳等を行っています。自らの起業で女性の雇用を創出し女性の生きがい作りに寄与してと思っています。今後も女性の活躍、女性の創業を支援していきたいと思っています。平成26年5月に、ノルウエー大使館、仙台市、仙台男女共同参画センター主催の東北の復興を担う女性リーダーノルウエー視察研修に福島県代表として参加する。</p>
伊勢田 博志	いせだ ひろし	NPO法人ツーリズム研究機構 / (有)サポート・エムツウ	<p>○イベント業務管理士(1級)及びフードコーディネーター1級(商品開発イベントメディア) 取得者、また内閣府クールジャパン地域プロデューサーとして各地の活性化事業を支援しています。</p> <p>農林水産省支援事業 ・道の駅、日帰り温泉、国民宿舎等交流ターミナルの企画・開業プロデュース 多数 ・特産品開発及び販路支援事業など多数</p> <p>経済産業省支援事業 ・東アジアより水俣への環境教育旅行の誘致事業プロデューサー ・地域資源を活用した商品開発及びマーケティング戦略の策定(多地域) ・クールジャパン関連事業のプロデュース(橋街道プロジェクト)</p> <p>内閣官房 ・地方の元気再生事業:4地域(北広島町、養父市、嵐山、兵庫県福崎町)プロデューサー ・内閣官房地域活性化モデルケース「橋街道」コーディネーター</p> <p>企業など ・シティホテル連盟インバウンド誘致海外セールスコーディネーター(欧州・アジア) ・大手ハムメーカーマーケティング研修(商品開発など) ・シティホテルなどのマーケティング研修(企画塾・プライダルフェアプロデュース等) ・鉄道系会社の新規事業創出・企画アドバイザー業務 など</p>

氏名	ふりがな	所属名称	取組概要
井手 修身	いで おさむ	アイデアパートナーズ(株)	<p>※地域の資源(人・モノなど)を編集及び加工し、マーケティング(=売れる仕組み作り)や組織の立上げ、活性化の具体的手法を現場に入って推進します。</p> <p>◆地域資源活用型のビジネス支援と地域活性化 具体的には、観光・集客・物販領域のバリューアップとして3つ展開。 ①まち中回遊、まち歩き等観光交流事業支援、 ②特産品開発、メニュー開発、農家レストラン立上げ支援、 ③観光・集客施設の診断・再生、売上向上支援 ④観光地域づくりプラットフォーム推進機構『常務理事』日本版DMOの組織づくりを支援。</p>
伊藤 数子	いとう かずこ	(株)パステラポ／特定非営利活動法人STAND	<p>車いす陸上競技の観戦が契機となり、2003年から電動車椅子サッカーなど競技大会のインターネットライブ中継を開始。誰もが明るく豊かに暮らす社会を実現するための「ユニバーサルコミュニケーション活動」のため、05年NPO法人STANDを設立し障害者スポーツ事業を本格始動させる。現在、ウェブサイト「挑戦者たち」の編集長として障害者スポーツの魅力を配信。 また、スポーツイベントや体験会を開催している。</p>
井上 俊彦	いのうえ としひこ	一般社団法人 札幌・北海道コンテンツ戦略機構／(株)コムブリッジ	<p>※地域ブランド(食・観光)の創造・商品開発 ※地域ブランド商品(食・伝統工芸品)の輸出促進 ※地域のインバウンド観光促進 ※地域における海外情報発信(SNS・メディア活用) ※地域におけるDMO設立支援・地域プロデューサーの育成</p>
井上 弘司	いのうえ ひろし	CRC地域再生診療所	<p>○全国各地にて、観光・ツーリズム・6次産業化・雇用創造・中山間地域振興等の講演、年間指導</p> <p>1. 地域診断の実施(地域課題の整理分析)および課題に基づいた人材育成</p> <p>2. 地域再生・地域振興に必要なアドバイスの実施 ・グリーン・ツーリズム、ニューツーリズムの推進支援 ・DMO、観光まちづくり事業体の設立指導 ・地域再生の手法や地域づくり・人づくり ・地域資源開発(6次産業化支援) 食、文化歴史、直売所、農村レストラン、農家民宿、体験プログラム、ツアー造成指導 有害鳥獣対策と活用</p> <p>3. 地域人材育成プロデュース</p>
伊原 和彦	いはら かずひこ	ETC 教育旅行コンサルタント	<p>◆観光・交流(教育旅行や着地型観光誘致)観光協会・商工会・受入協議会等の教育旅行誘致アドバイザー 体験プログラムの開発・インストラクター育成 第一次産業を活用した民泊受入組織の人材育成・マーケティング支援指導 観光振興・地域活性化をテーマとした講演・セミナーの講師 着地型観光(ニューツーリズム)の講師や商品造成・人材育成・支援指導</p> <p>◆地域産業・イノベーション・農商工連携 地域活性化支援アドバイザー 地域特産品の開発・食の開発やマーケティング支援指導</p>
今村 展大	いまむら のぶひろ	I・Sコーポレーション	<p>沖縄県において地域産品の企画開発(沖縄県最優秀県知事賞受賞)、Eコマース、WEBマーケティング会社設立を経て、2005年沖縄県産業振興公社専門アドバイザー、沖縄県商工会連合会エキスパートに就任。その後、地域特化型グルメサービス「ちゅらグルメ」を創設。県民限定のお得なサービス「ちゅらとく」創設など観光媒体業において数々のサービスの立ち上げを行う。2011年からは更なる地域発展を描くビジネスを追求すべく、行政との連携を深め、2013年には日本初の取り組みである映画をツールとした地域活性化を沖縄県名護市名護大通にて実施。映画「がじまる食堂の恋」を製作、全国公開並びに全国の蔦屋にてレンタル・セル展開。その後は、マイナビとのジョイントベンチャーによる台湾香港向け観光媒体「珍遊沖縄」を創刊。2014年には株式会社全国商店街支援センター「商店街よろず相談アドバイザー」、経済産業省キーパーソンに就任する。2016年には、これまで培ってきたブランディングノウハウを体系化し、新任担当者でも90日でブランディングできる「メイク・ブランド・メソッド」を確立。地域活性を目的とした強力な地域ブランド構築に主力をおいて活動している。</p>

氏名	ふりがな	所属名称	取組概要
今村 まゆみ	いまむら まゆみ	観光まちづくりカウンセラー	<p>14年間にわたる国内旅行雑誌「じゃらん」の編集経験をいかし、その土地ならではの魅力ある資源を発掘し、観光素材へと仕上げ、戦略的にマスコミにPRすることを得意とする。消費者やマスコミ、トレンドを意識した「コンセプト」「ターゲット」「話題になる観光開発」にポイントを置き、地域ブランドの構築から観光資源の開発にかかわるアドバイスや組織づくりに取り組んでいる。</p> <p>【実績】20～30代独身女性をターゲットにした観光コースや体験プログラム開発／ペット同伴者向けのルートコースやサービス開発／50～60代のアクティブ女性向けの観光コースや体験プログラム開発／地域の素材を使った特産品開発／マスコミ向けのプロモーションツアー／広域連携での観光開発・PR事業／地域のキーマンを育てるための職員研修／効果的な情報発信・地域ブランドに関する講演(※独自の視点で対象エリアへのアドバイスを盛り込んでいる点が好評)</p>
岩崎 徹	いわさき とおる	株式会社アイダ	<p>①講演・ワークショップ実演 地域住民が主体となって、地域ならではの資源を再発見し、編集することで、個性的で誇れる地域ストーリーを作るためのワークショップのファシリテーション。</p> <p>②地域経営人材養成 地域経営力とは、事業構想能力、マーケット創造能力、資金調達能力、そして人材育成能力。これらを持った人材を見つけ出し、事業環境を整える講座運営。</p> <p>③地域ビジネスサポート: 地域ストーリーをもとに新たな市場を作り出すビジネスをつくり出すための支援。人材育成、事業構想、事業計画、資金調達、事業経営を実践的に支援。</p> <p>④地域コミュニティ形成: 地域ビジネスのステイホルダーは、顧客、株主、社員に加え、地域住民。持続可能な地域ビジネスは彼らを幸せにするビジネススキームを作り上げる。</p> <p>⑤事業創業・協業: 新たな地域事業を自ら実現し、地域住民や事業者とともにビジネスを興し、事業運営を行う。アドバイザーやコンサルタントだけでなく、自らもプレイヤーとして事業に関わっていく。</p> <p>その他、司会、執筆、事務局運営、マーケティング、PR業務など。</p>
臼井 純子	うすい じゅんこ	オフィス・ウスイ/NPO法人日本風景街道コミュニティ	<p>・地域活性化にかかわるさまざまな事業について、経営視点から事業の構築、プロモーション、継続的な運営手法についてアドバイスをおこなっています。</p> <p>・地域の資源「ひと、もの、金、情報」の有効な活用方法、人材発掘と育成など、その地域の特性を活かした地域活性化策(観光、産業振興、移住・交流など)を、地域の住民とともに、地域に根付くやり方で実施していくことを何より大切にして、取り組んでいます。</p> <p>・地域の事業者の「家業」をどう「企業」まで底上げしていくか、経営のイロハについてわかりやすく指導・育成を実施しています。</p> <p>・地域リーダー、女性の起業についての育成・指導・助言を行っています。</p>
大岡 千紘	おおおか ちひろ	東栄町役場振興課	<p>地域のひとと行政・外部をつなぐ橋渡しを担う。特にビューティーツーリズム「naori」事業では、地元企業と連携し、美をテーマにしたツーリズムを立上げ、地域資源の新たな可能性を開拓。・女性観光客の誘致。地域に新たな観光モデルを生み出す。・全国的なPR。美の地産地消という新たな地域資源活用の取り組み。・手作りコスメティックインストラクターとして、地域資源を用いたコスメの体験指導。など、美をテーマに観光・交流の開拓が期待できる。またその企画を実行に至るまでの地域との関係づくりにおいて、その実績・ノウハウを他地域へ拡大することが期待される。地域のアイデアを行政と連携しながら、外部視点を交えて実現に向けて支援。</p>
大下 茂	おおしも しげる	帝京大学経済学部観光経営学科/株KITABA	<p>『集客』を研究テーマとして、観光計画、地域活性化計画、中心市街地活性化計画など、地域づくり、まちづくりの分野において、『論と行動』をテーマに実践的な取組み展開を図っている。地域に軸足を置いて、地域の方々と一緒になって「地域を元気にするための方法」を実践する地域密着型の活動形態のため、活動エリアは首都圏近郊に限られている。</p> <p>主な実績は、東京都品川区観光アクションプラン、大田区観光振興プランに関わるとともに、両区の広域観光まちづくり事業スーパーバイザーを平成20～22年度より努める(現在はアドバイザー)。また、平成24年度より両国地区観光まちづくりランドデザイン等の委員長を努める他、東京都観光部や特別区協議会の講座・シンポジウム等に関わっている。千葉県内では、佐原、木更津、いすみ、久留里、市川中山、御宿、浦安、四街道、習志野、勝浦、長生村、九十九里、多古町等、群馬県では、みどり市大間々、甘楽町、伊勢崎市境島村、下仁田町、みなかみ町、渋川市伊香保温泉の観光まちづくりに関わっている。</p>

氏名	ふりがな	所属名称	取組概要
大宮 透	おおみや とおる	小布施町	<p>小布施町では、特に、行政と地域住民、地域外の住民(特に若者)などの様々なアクターを繋ぎ、新しい価値を創造するための活動を展開している。プロジェクトをベースとして、議論の場をつくり、多様な視点を持ち寄って、若者をターゲットにしたまちづくりプロジェクトを企画。</p> <p>2012年からは、全国から集まった200名の若者が日本の未来を語る場づくり「小布施若者会議」を企画運営するとともに、2013年には、ハーバード大学をはじめとする世界中の大学生とともに、高校生を対象としたサマーキャンプ「HLAB OBUSE」の企画運営をコーディネートしている。また、それらの取り組みを積極的に地域外に発信しながら、「若者が活躍できる町」としての小布施町のブランドづくりと、それを実現するための制度構築を行政と連携しながら推進している</p>
奥村 伸幸	おくむら のぶゆき	㈱くじゅうビバレッジ・㈱おおいだ観光サービス	環境保全のための高山動植物の保護活動・植物等の定点観測・地熱発電と自然との共生の取り組みと提言・地域企業のCSR推進・清涼飲料水自販機と地域貢献との作業提言
小野塚 喜明	おのづか よしあき	しおざわ版ダッシュ村	四季を通して農業と観光の結び付きをツーリズムへのろしプロジェクトでは自立型事業へ産業廃棄物処理場計画から環境モデルへ各地へ講演活動
海津 ゆりえ	かいづ ゆりえ	文教大学国際学部	<ul style="list-style-type: none"> ・1. 資源調査(宝探し)の支援 岩手県二戸市や南大東村など、里山や離島等での資源調査に関わってきました。住民とともに宝探しをし、そこからイノベーションを興す活動を支援しています。答えは観光ばかりではなく、ブランド開発等へも展開していきます。 ・2. エコツーリズムの推進 西表島や裏磐梯等でエコツーリズムのスタートアップの支援を行ってきました。このようなエコツーリズム推進地域への全般的アドバイス(推進方策、人材育成等)を行います。 ・3. 宝探しからエコツーリズムへー観光まちづくりへの支援 地域づくりは長い年月をかけ、多様な人とのネットワークを広げながら進めるものです。数年かけて、宝探しからエコツーリズムの推進までの経緯をトータルでサポートします。 ・4. その他 学生参加型調査、プロのガイドとの協働によるツアー開発、日本エコウォーク環境貢献推進機構との連携による「まちあるき」の開発等、私のチャンネルを活かした支援が可能です。
角田 周	かくた しゅう	企画集団ラブリ一金木	<p>地域を愛する勝手連のボランティア活動中です。</p> <p>主な活動は、地吹雪トレッキングとストーブ列車車内サービス。</p> <p>冬季中心の活動で、台湾からの誘客を積極的に図り、来年からは香港、中国本土からの雪に憧れる人々を受入。</p> <p>今年度からは、通年観光を手掛け、様々な旅行商品を開発中。</p>
梶川 貴子	かじかわ たかこ	株式会社 ウェルネスアリーナ	地域の特性を活かした、産業振興および活性化のサポート。マーケティング戦略の立案および実行など。
春日 俊雄	かすが としお	かやぶき集落 荻ノ島	<p>1988年から地域住民と協働して、地域のビジョンづくり及び実践、純産品マーケティング、人材養成、イベントづくりを行政職員として主導・自ら実践。交流観光施設「じよんのび村」、「茅葺の里」などに取り組み交流人口を3万人から23万人に伸ばした。その後も、特色ある集落振興ビジョンづくりや中山間地域直接支払い制度事業に取り組む。</p> <p>また、市町村合併後の広域観光まちづくり「柏崎市七街道観光まちづくり事業」を観光交流課長として主導し、地域住民と協働で取り組む。</p> <p>新潟県中越沖地震の発生による観光客対応から観光復興までを取り組む。宮城県町村会をはじめ新潟県村上市朝日地区などの依頼により「協働の地域づくりに係る助言・指導」及び地元の「住民の起業に係る助言・指導」に取り組む。また住んでいる荻ノ島集落についても新たな集落経営に向けて2011年ビジョンづくり、2012年外部人材の導入・空き家の実測、2013年～集落経営のツールとしての施設整備に取り組むなど実践している。</p>

氏名	ふりがな	所属名称	取組概要
片岡 由美	かたおか ゆみ	一般社団法人 東京都中小企業診断士協会 城南支部	<ul style="list-style-type: none"> ●「観光」に関すること→マップづくり、シンポジウムコーディネート ●「まちづくり」に関すること→ イベント企画・実施、まちづくりワークショップ ●「商業活性化」に関すること→ 商店街・個店コンサルティング、商店街青年部勉強会の実施、創業セミナー・相談、空き店舗対策 ●「食」に関すること→ 地域産品などの開発、人材育成(特に女性)
加藤 慈然	かとう じねん	一般社団法人 尾道観光協会 / 妙宣寺	<ul style="list-style-type: none"> ◎ 平成12年 本立寺かぐや姫美術館を開設【尾道市 平成16年度】 ○ ユビキタス観光ガイド「どこでも博物館」システム構築に参画【内閣府 平成16年度】 ○ 内閣府より受託事業「都市再生モデル調査事業」に参画【文部科学省 平成18年度～平成19年度】 ○ 地域ボランティア活動推進事業のセミナーとWS全20回【総務省 平成18年度～平成20年度】 ○ 総務省より受託事業「情報通信月間」プログラム作成【国土交通省 平成19年度】 ○ 国土交通省より受託事業「まちめぐりナビ・プロジェクト」プログラム作成【国土交通省 平成20年度～平成21年度】 ○ 国土交通省より受託事業「しまなみ海道自転車活用社会実験」プログラム作成【国土交通省 平成22年度～現在】 ○ しまなみ海道観光圏事業のWS全8回【広島県 平成23年度】 ○ 緊急雇用対策事業「サイクリングガイド養成事業」プログラム作成【国土交通省 平成24年度～現在】 ○ 広島県自治体職員研修 講師【国土交通省 平成25年度】 ○ 国道54号等尾道松江線沿線市町活性化WS 講師3回【経済産業省 平成25年度】 ○ クールジャパンの芽「かぐや姫の残り香」プロジェクト 専門講師
加藤 文男	かとう ふみお	株式会社ちば南房総(枇杷倶楽部)	<p>地域産業と文化の振興、情報発信基地を目指した「道の駅とみうら・枇杷倶楽部」の初代駅長として、計画の立案から、開設後の運営管理に12年間にわたって取り組みました。その間、事業効果を高めるため、特産の枇杷を活用した商品開発や、集客資源を束ねて誘客する「一括受発注システム」を稼働させ、地域経済を拡大させるとともに、自治体が全額出資した道の駅の運営法人の黒字経営を維持させました。さらに、人形劇などの地域文化の磨き出しや、インターネットを活用した広域情報の発信による地場産業振興など、多角的な手法で広域的な地域振興を進め、観光客の増加と平準化、約60名の雇用の創出をもたらしました。</p> <p>近年では、道の駅による地域活性化の開発途上国への応用のため、タイ、ベトナムでの活動を続けています。</p>
加藤 誠	かとう まこと	株式会社ジェイティービー	<p>近年ツーリズム産業を取り巻く環境は急速に変化しており、従来型のツアースタイルではマーケットニーズに応えることは不可能となっています。旅行会社が主導してきた発地型のマストツーリズムから、地域社会が主体となる着地型のニューツーリズムへと時代が移りつつあり、暮らしや文化など地域固有の魅力を生かした旅の創出が求められています。</p> <p>JTBグループでは、事業ドメインを総合旅行業から「交流文化事業」に進化させ、国の成長戦略と位置づけられた観光を基軸とした交流人口拡大による地域活性化を推進しております。これまでの発地でのマーケティング活動にとどまらず、着地においては地域行政・住民を巻き込んだネットワークの構築、地域魅力を生かした旅行商品の開発・流通支援、地域ブランディング、観光まちづくり、など、地域の皆様とともに地域視点での取り組みを全国各地で進めております。観光振興プランの立案、人材育成、着地型旅行商品の開発等、地域のマネジメント活動に積極的に取り組んでおります。</p>
兼古 哲也	かねこ てつや	北月山自然景観交流振興プロデューサー	<p>平成19年2つの町の合併によって生まれた山と町場の交流が地域を見直すチャンスとなり、庄内町唯一の観光宿泊施設「月の沢温泉北月山荘」で、一度は閉店した食堂を地元主婦グループからの協働で主婦レストラン「やまぶどう」を開業した。使用する食材は地元で採れた山菜や新鮮野菜に美味しいお米といった地産産100%の素材、その食材本来の味を大切に地元料理が好評で、利用者の増加に結びついている。平成26年から「やまぶどうの会」が町の淡水魚養殖施設の指定管理者となって、町の特産品でもあるイワナの養殖販売の運営をしている。また、北月山自然景観交流施設振興プロデューサーとして、北月山荘を拠点に自然体験や農業体験等グリーン・ツーリズムの推進、地元高校への観光出前講座等を実施している。</p>

氏名	ふりがな	所属名称	取組概要
唐橋 宏	からはし ひろし	(有)會津きり屋	1991年に会津地方の幅広い関係者の参加による「会津そばトピア会議」を設立し、「日本一のそばの郷づくり」を合言葉に多彩な活動を展開することによって、会津そばの地域での広がりや全国的なブランド化に努める。また、そばの栽培面積も飛躍的に拡大するとともに、そばを核とした観光事業や地域間交流事業を積極的に展開。1985年全国のそば振興ネットワーク「全国麺類文化地域間交流推進協議会(全麺協)」を発足、以後日本そば博覧会を各地で開催指導、同時に全国各地でそばによる地域づくりの指導を実施、また、素人そば打ち段位認定制度の全国認定審査員として各認定大会で審査員を務め、段位認定者は1万人を超えるまでになる。全国各地の「そばによる地域活性化」の指導を実施中
川口 真	かわぐち まこと	標津町産業クラスター創造研究会	食中毒の風評被害によって、地域経済が危機に直面した事から、万が一にも食品事故を起さない取り組みとして、漁場・市場・加工・流通までを一貫した浜の高度衛生管理システムの「地域ハサップ」を樹立して、11年を経過。今や「地域ハサップ」は町の誇りや魅力として、鮭や帆立貝のブランド化に大きな貢献をしている。又、この活動を消費者に知らせるために、漁港などの生産現場を開いて消費者への「観光体験の拠点」としての活用を図った「標準版エコツーリズム事業」を創設し、鮭の荷揚げや水産加工などの産業現場体験や漁業者との交流を中心に、農業も含めた産業や生活、自然など町の足元にあった「何気ない地域資源」を「体験観光素材」として磨き上げ、町民ボランティア観光ガイドの養成と組織化の融合によって、今や20校余りの修学旅行が関東・関西方面から訪れる「目的観光地」として成長した。これは、生産現場を開くという「産業の観光化」によって、「観光が産業化」したものである。
菊池 新一	きくち しんいち	特定非営利活動法人 遠野山・里・暮らしネットワーク	遠野のグリーン・ツーリズム研究会の立ち上げから、今日までグリーンツーリズムの振興に関わる。ふるさと公社では、道の駅「遠野風の丘」の立ち上げ、コミュニティビジネスの振興に関わる。商工観光課では、コミュニティビジネスを取り入れた、ショッピングセンターの再生に関わる。現在、震災の被災地や東北各地においてソーシャルビジネスの立ち上げをキーワードに、農家民宿、農家レストラン、産地直売所、農産物の加工など、六次産業化や農工商連携の起業支援を行っている。また、グリーンツーリズムの実践、着地型旅行業への参入などを行っている。
木田 悟	きだ さとる	(一財)日本スポーツコミッション/東京大学	<ul style="list-style-type: none"> ●設立目的 (一財)日本スポーツコミッションは、スポーツをまちづくりや地域の活性化の手段として捉え、スポーツの有する多様な機能を活用したまちづくりや地域の活性化に資する調査研究や活動を行うことを目的として設立しました。 ●活動内容 <ul style="list-style-type: none"> ・各種スポーツを活かしたまちづくりや地域活性化に資する調査研究：自治体等からの調査等の受託 ・スポーツを活かしたまちづくりや地域活性化に資するセミナー・研究会の開催：スポーツコミッション研究会・サイクリズム推進研究会の開催 ・スポーツを活かしたまちづくりや地域活性化に資する本・冊子等の発刊 ・スポーツを活かしたまちづくりや地域活性化に資する会員事業：スポーツコミッション連絡協議会の運営 ・商標である「スポーツコミッション」の的確な使用に向けた講演や執筆活動等の実施
北野 尚人	きたの ひさと	広島経済 大学経済学部 メディアビジネス学科/株式会社 中国四国博報堂	<ul style="list-style-type: none"> ・「地域絆と東京鮮度」をモットーに、マーケティングやコミュニケーションの知識・ノウハウを活かし、地方都市ならではの情報や時間面での真の豊かさの実現支援に向けて活動中。 ・今街中で起こっていることが分かれば、すぐに駆けつけられるサイズのコンパクトシティだからこそできること、ワークライフバランスの良さをどう生かすかを模索中。 ・博報堂のブランディング・ノウハウを活用した「地ブランド構築」支援活動も展開中。特に、最近では、農産物や水産物のブランド化、地方都市のブランド化、地方ならではの「食」のブランド化、等に関してもチャレンジ中。 ・「瀬戸内海」と「中国山地」「山陰地域」の魅力の棚卸しを、辛口の他所者視点に立って推進中。 ・大学へ移ってからは、マーケティング、コミュニケーション、メディア、広告、広報、ブランディング等を研究。 ・学生に対しては、従来の常識にとらわれない柔軟な発想で、物事を見つめ考えることを指導。

氏名	ふりがな	所属名称	取組概要
吉川 真嗣	きっかわ しんじ	村上町屋商人会／チーム黒塚プロジェクト／むらかみ町屋再生プロジェクト	新潟県村上市は歴史ある城下町。平成9年、大規模な近代化計画が浮上。この中、町を守るための活動を開始した。それまで日陰の存在だった村上の古い町屋のもつ価値に光を当てる取り組みだった。町屋を活かし街の賑わいを取り戻せればきつと近代化を食い止めることができると思ったのだ。平成10年、生活空間である江戸や明治の町屋の内部が村上の財産だと確信し、生活空間である町屋の公開を22軒で始めた。話題を呼び、それまでゼロだった旅人が町に訪れ変化が起こる。更に2年後、タイムスリップしたような町屋の中に人形や屏風を展示して公開する「町屋の人形さま巡り」「町屋の屏風まつり」を企画し、旧町人町の町屋60軒で開催。一年を通し全国から30万人が訪れる町になる。しかしなおも近代化が推進されようとするその中、平成14年、市民自ら村上のあるべき姿を示そうと歴史的景観作りを開始。「黒塚1枚1000円運動」を行い、ブロック塀だった塀を市民の力で黒塚に変える「黒塚プロジェクト」を行う。7年間で360mの黒塚を作った。平成16年、町屋再生プロジェクトを開始、町屋再生のための市民基金をつくり町屋の外観の再生を開始した。市民による全国で初めての取り組みで現在20軒が再生。街は徐々に城下町の風情を取り戻しつつあり、一年を通しての街の活性化につながってきている。 一人から始めた取り組みだが、仲間ができ、やがて組織を成し、そして事を起こし、逆境の中にあって、市民の意識を変えながら町を動かす強力な運動体へと発展した。行政に頼らない市民主導のまちづくりとして全国から注目を集めている。
木村 乃	きむら だい	ビズデザイン株式会社／明治大学商学部	経済団体や自治体、NPO・NGO、大学の皆さんに対して、地域活性化プロジェクトの立案コンサルティングのほか、現場コーディネート、人材育成を実践します。 担当したコンサルティング、コーディネート業務、研修講師業務のほとんどでリピートオーダーをいただいています。 これは、企業経営(産)、行政職員(官)、大学教員(学)の3つの職歴をもつ稀有の経験を生かした実践的なコンサルティングが支持されているものと自負しています。 その他、基礎的なアンケート調査等の業務支援(設計、集計、レポート)も行っています。
五井 利明	ごいぶち としあき	NPO法人CRファクトリー	様々な側面から地域と人を活性化させるつながりづくり・きっかけづくりに取り組んでいる。 ◆「Non-Purpose～首都圏のWA」の幹事として、参加者のソーシャルアクションのきっかけの場となるよう、月に1度のペースで様々な企画を開催している。 ◆全国各地の地域づくり団体によるプレゼンテーション&ワークショップ企画「風のたより」実行委員会副代表として、各地の地域づくりを全国に発信することに取り組んでいる。 ◆NPO法人「CRファクトリー」のコンサルタントとして、コミュニティ支援事業を通して、世の中にあたたかく良質なコミュニティを創出・支援することに取り組んでいる。 ◆岐阜県恵那市の「心の合併」を生んだ映画「ふるさとがえり」を上映会形式によって各地に展開し、全国で人と地域の絆を見直し語り合う場を創出している。
古賀 方子	こが まさこ	特定非営利活動法人 全国街道交流会議	「全国街道交流会議」には、街道や歴史文化を活用して地域づくり、交流・連携に取り組む全国の自治体、民間団体、個人が参画している。全国大会の開催やまちづくり情報の共同発信などを通じてネットワーキンを進めるとともに、国、県、市区町村、住民間の連携をコーディネート。「往来再生」と「地域の自立」をテーマに、各地で官民協働によるみちおこし、まちおこし事業に取り組んでいる。
古川 充	こがわ みつる	古川行政書士事務所/地域経営コンサル 合同会社なるさ	・神奈川県庁から人口2000人の小さな君田村役場に転職する。 1996年から宿泊、温泉などを備えた道の駅整備による村づくりを担当し、15年間事業の責任者を担う。住民240人の第3セクター経営により、年間利用者25万人の地域振興の拠点施設として持続経営の展開の基盤づくりを行なう。経営に従事する中で、収益の一部を村役場に5億3千5百万円の寄付を行なう。これを、村は、将来の施設修繕に充てる基金化する。 事務局長や責任者として仕掛け続けた、組織、集落が下記を選奨 ・2000年 地域住民が連携した農村振興が認められ「豊かな村づくり賞農林水産大臣賞」 ・2004年 道の駅を核とした地域振興が認められ「立ち上がる農山漁村」に選定 ・2016年 中山間直接支払活動が評価され「中四国農政局長表彰最優秀賞」 ・地域振興組織が持続可能な取り組み方策の選択として、組織の法人化、組織運営の指導 ・第3セクター経営の改善支援 ・2004年 「地域産業担い手たち・地域ビジネスリーダー」(経済産業省中国経済産業局)

氏名	ふりがな	所属名称	取組概要
小島 玉雄	こじま たまお	サン・アクト株式会社	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の貴重樹木や天然記念物の診断や回復を通じた地域資源の保全、地域活性化。 ・サクラの樹勢回復による観光地の名所の保全、地域活性化。 ・サクラでは、各種メディアへ取り上げられ、数多くの観光客が訪れる事例を多数有する。 ・樹木の診断技術開発を産官学連携で行い、地域再生に繋がる仕組みを多数構築。 ・京都大学等、大学と連携したプロジェクトを実施し、地域に貢献する仕組みづくりの構築。 ・各種メディアや企業との連携により、地域の再生・活性化に繋がる仕組みづくりの構築。 ・サクラを活用した地域コミュニティの再生、活性化。 ・樹木再生だけでなく、対象地域の活性化・立ち上げ支援。
古関 和典	こせき かずのり	株式会社JTBコミュニケーションデザイン	<p>映画・映像を活用した地域活性化事業の推進。 (主な事業実績)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・クールジャパン推進事業(自治体連携により、アニメの「聖地」の中国へのプロモーションならびに誘客事業)経済産業省 ・映画「Railways」を活用した富山県のプロモーション事業(富山県観光連盟) ・映画「天心」を活用した映画連携復興支援事業(茨城県) ・映画「銀の匙」を活用した帯広市プロモーション事業(北海道帯広市) ・日台合作映画「南風」による愛媛県インバウンドプロモーション事業(愛媛県) ・連続テレビ小説「まれ」を活用した石川県・能登地方のプロモーション事業(石川県) ・ロケ地紹介アプリケーション製作事業(東京都)
駒田 健太郎	こまだ けんたろう	コマケンラボ	<p>2013年～ 会津の新しい地域ブランド「ハンサムウーマン」プロデュース(経済産業省補助事業)</p> <p>2013年 会津地域の観光地域づくり事業プロデュース</p> <p>2015年～ 栃木県鹿沼市「加藤芸術村」プロデュース、アートディレクション</p> <p>2015年～ 鹿沼市産製「にっこりなし」の海外展開プロデュース</p> <p>2013年～ 鹿沼さつき盆栽&組子細工の海外展開プロデュース(経済産業省クールジャパン事業)</p> <p>2008年～ 鹿沼市観光ネットワーク計画策定、観光サインデザイン</p> <p>2013年～ 岐阜県白川町エコツーリズム推進業務</p> <p>2008年 岐阜県笠松町 リバーサイドタウン笠松計画(まちづくりマスタープラン)策定</p>
小松 裕介	こまつ ゆうすけ	株式会社スーツ	<p>観光施設の再生を通じた地域活性化にノウハウと実績を有していることから、マーケティング戦略など経営戦略の立案、広報体制の構築、オペレーションの改善、経費の削減、人材の育成やリスクマネジメント体制の構築など、幅広いスキルと経験を地域活性化の現場に活かします。</p> <p>また、公共施設老朽化対策における公民連携分野でのアドバイス経験を有していることから、より多くの人々を「巻き込んだ」仕事の進め方に慣れており、様々なステークホルダーをまとめるリーダーシップとコミュニケーションのノウハウを地域活性化の現場に活かします。</p> <p>具体的には、全国各地の地域振興や観光振興などの課題・問題点に対するアドバイス、コンサルティング、実際の計画立案支援や実行支援などを行います。</p> <p>また、「観光施設の再生」、「企業再生と地方創生」や「経営改革とリーダーシップ」などに関する講演も行います。</p>
斎藤 一彦	さいとう かずひこ	常磐興産(株)	<p>平成19年に社団法人いわき市観光物産協会の副会長に就任し、平成20年の観光まちづくりビューローの設立に尽力する。同年、会長に就任以来、いわきの観光・物産の宣伝活動を始めトップセールスマンとして活動、いわき観光・物産発展のため鋭意邁進している。</p> <p>また、平成20年からは財団法人福島県観光物産交流協会の副理事長も務め、福島県の浜通り地方及び福島県全体の観光振興にも尽力する。特に、この度の東日本大震災に際しては、率先して福島県の振興に取り組み、現在も日本・福島風の風評被害払拭に向け取り組んでいる。</p> <p>平成26年4月いわき応援大使受嘱。</p>

氏名	ふりがな	所属名称	取組概要
笹原 司朗	ささはら もりあき	琵琶倉庫株式会社	明治33年、滋賀県長浜市の中心市街地に第百三十銀行国立長浜支店が建てられ、黒漆喰の外観から「黒壁銀行」という愛称で親しまれた。昭和40年代頃まで活況であったが、モータリゼーションの発達や郊外型大型店の進出により中心市街地は急速に衰退していった。昭和27年から黒壁銀行はカトリック教会として使用されていたが、商店街の衰退とともに郊外への移転を余儀なくされ建物を売却した。建物が売却されたことで長浜市より要請を受け、昭和63年4月、長浜市(出資4,000万円)と地元企業8社(合計出資9,000万円)による第3セクター「株式会社黒壁」を設立。建物の保存と活用を目的とし事業を模索する中、「ヨーロッパでガラスを制作している所には人が集まる」という役員の一言でガラス事業の研究を提案。国内のガラス観光地を視察するが、土産物ばかりのガラス製品に不信感を抱き、土産物ではないガラス工芸品を取り扱う事業を目指す。国内を抜け出し役員らが自費でヨーロッパのガラスを視察。ガラスの歴史・文化性を目の当たりにしたことで、【ガラス文化の事業化】という方向性を見出す。建物を含む「歴史性」、祭りを含めた「文化芸術性」、「国際性」豊かなものを内在するガラス文化事業の推進を図る。平成元年7月1日、黒壁銀行を「黒壁ガラス館」としてガラス工房、レストランと共にオープン。来街者数の増加に伴い施設の拡張が必要となった折、長浜市の調査で黒壁ガラス館の横に通る北国街道沿いには江戸から 明治時代にかけての商家や町屋が多く残っていることがわかり、これらを活用した事業展開を行う。平成2年より第2期事業として、地元物産館やガラスギャラリー、郷土料理店などをオープン。平成4年に増資を行い、ガラスの美術館である「黒壁ガラス鑑賞館(現:黒壁美術館)」をオープン。現在、黒壁スクエアは約30店舗となり、年間約200万人の来街者で賑わう。
澤崎 聡	さわさき さとし	澤崎聡事務所	地域をブランド化の視点から、実体づくりと具体的な事業展開で活性化。行政・公共団体をはじめ地域企業のブランド戦略、デザイン・ナレッジによる産業推進、農水の地域を巻き込んだプレミアムブランド化戦略など、地域特性を生かした連携やゼロミッションなど発想の転換で取り組んでいます。歴史、まつり、食、文化などの掘り起こしをおこなう農工商・観光・新産業を新規開発。「地域ブランドから地域がブランドへ」地域のもつマインドを大切に、アートとデザイン、文化発想でのオンリーワンの地域づくり、人づくり、ものづくりをブランド化事業で展開。未来の主役、子どものための企画推進を実施。文楽世界遺産やロボカップ世界大会事業、グローバル時代の地域の日本食開発・発信、観光開発、中小企業のモノづくりまで、日本発クールジャパン、そして次の日本への視点で事業を実施。
椎川 忍	しいかわ のぶ	(一財)地域活性化センター／ (一社)移住・交流推進機構／ 日本創生委員会／地域に飛び出す公務員ネットワーク	人材育成と地域おこしをライフワークとして、土・日・祝日を殆どつぶして全国を行脚し、支援活動や講演を行う。 地域に飛び出す公務員ネットワークを結成。これを応援する首長連合の設立を提唱。国際日本文化研究センターでは「森里海連環」の研究に参画。政策研究大学院大学とも連携。首都大学東京非常勤講師。明治大学公共政策大学院兼任講師。東京農業大学客員教授。由利本荘市特別顧問、北中市及びいすみ市地域力創造アドバイザー。日本創生委員会では、林業復活・地域創生推進委員会アドバイザーとして活動。農村文明創生日本塾、やねだん故郷創生塾、東京おもちゃ美術館、葉っぱビジネスの(株)いんどり、TOSS(まちづくり教育)、(一社)IGOコミュニケーションズ、NPOフュージョン長池、高知県の地域産業おこし、山形創造NPO支援ネットワーク、東近江市魅知普請、山梨農業協力隊と故官原文太さんの農業生産法人、日本フットパス協会、関西連続講座、全国各地の市町村職員研修所など数多くの活動と連携。
志賀 秀一	しが しゅういち	(株)東北地域環境研究室	観光を基軸としたまちづくり、計画づくり、観光マーケティングなど。観光施設などの整備に関する調査など。
篠原 靖	しのはら やすし	跡見学園女子大学	小職は約30年間に渡り、大手旅行会社で商品開発やマーケティング業務を行う一方、地域素材を活かした数々の着地型旅行商品をヒットさせて来ました。現在は大学で「観光地域活性化」に関する教鞭をとる一方、その土地にしか無い観光資源の発掘とリメイクを行いながら新たな観光誘客に必要な受け入れ態勢の整備(日本版DMOの構築)のお手伝いをしております。地方創生戦略で新たに注目を集めているのは交流人口を拡大し地域の小さな経済を回す新しい概念の観光による地域活性化の手法です。観光は今や農業、漁業や商業、工業など地域力を総結集して地域の魅力を120%創出する事が求められています。一方インバウンド観光客は2000万時代を迎え訪日外国人旅行者の消費額は3兆円を突破しました。しかし課題は外国人観光客の地方分散です。こうした新たな流れの中で全国の市町村においても出来る対策を今から準備する必要に迫られています。しかし多くの地域は一生懸命に取り組んではいるものの、残念な事に空回りしている地域が大変多いのが現状です。全国各地で実践してきた現場の成功事例、失敗事例をベースしながら、『自分の地域を本当に何とかしたい!』という熱い皆さんの地域を応援していきます。

氏名	ふりがな	所属名称	取組概要
清水 慎一	しみずしんいち	大正大学地域構想研究所	観光交流を活かした豊かな地域づくり、「住んでよし訪れてよし」の観光地域づくりをどのように進めるか。このような問題意識のもとJR/JTBの役員時代から各地域を周り、あちこちのアドバイザーを努めてきた。このなかで、単なる専門家のアドバイスやスキルの伝授、更には一過性の講演、一年限りの専門家派遣事業だけでは地域は持続的に観光地域づくりを進めることはできないことを悟った。何故ならば、派遣される専門家も受け入れた地域、特に行政が結果に対して何の責任を持たない事業は「観光ごっこ」「まちづくりごっこ」であって、住民にとって全く迷惑以外の何物でもないからだ。私としては、住民の内発的な力をどう引き出し、それを観光振興や元気なまちづくりにどうつなげていくかという観点から、ワークショップなどのメンター的な役割に徹するとともに、住民の活動を持続的に担保するために、中核人材を育成し、彼らが活躍する組織(観光地域づくりプラットフォーム＝日本版DMO)を作り上げることのお手伝い、そのための地域の合意形成のお手伝いに全力を傾注する。
白仁 昇	しらに のぼる	一般社団法人おきなわ離島応援団	総務大臣 委嘱「地域力創造アドバイザー」(北大東村担当)においては、沖縄県の指定離島39島の中でも、もっとも生活環境の厳しい島のひとつである「北大東島」の事情に即した取組みを北大東村役場の村長はじめ、役場の職員と真剣に協議を行なった。全国発売の雑誌などにその取組みが複数回紹介され、平成20年2月7日には、沖縄の離島市町村単独主催のシンポジウムとしては極めて珍しい有料(3000円)の「頑張れ！北大東島シンポジウム」を都内で開催し、満員御礼となった。
進士 徹	しんし とおる	NPO法人 あぶくまエヌエスネット	1. 都市交流「ライフシェアリング」事業の提案をしています。過疎中山間地域には課題が山積しています。課題を交流事業から解決してゆく手法の提案です。1年365日のあなたの7日間を地方で汗を流しましょう・・・ 2. 地域防災対策、災害教育の視点から地域コミュニティのあり方を探求します。東日本大震災・福島原発事故経験から、非常時に対する備えなど地域間交流を日頃から活発に行う事の重要性をお伝えします。日本＝災害列島。命・地域を守る事をシェアしていきます。 3. 地域再生のあり方を、過疎地での自然学校活動経験からお伝えします。キッズツーリズムで日本を元気にする。 4. 指導者養成「自然体験・地域リーダー・人材育成・まさかの時の生き残り塾」上記事項を講演・セミナー・ワークショップ形式など受講者の参加型で行います。幼稚園・小・中・高・大学・専門学校、国立青少年自然の家、自治体、各種グループからの依頼。
須川 一幸	すがわ かずゆき	㈱地域振興研究所/東京富士大学	昭和58年から地域に入り、地域資源の調査の現場で「地域の宝物」を再発見する活動を実践してきた。イベントによる地域活性化から入り、商店街振興、観光振興、農業振興、福祉や教育・文化の振興など地域のあらゆる分野の活性化に企画・計画～実施～検証～時代に合った計画に修正～実施～検証と継続的に地域と関わってきた。特に、宮崎県西臼杵郡五ヶ瀬町については、グリーン・ツーリズムによる活性化にはじまり、商店街振興、観光振興、介護福祉計画、長期総合計画と町のすべての分野に関わり、町のシンクタンク的存在としての役割を担ってきた。その後、熊本県の農産物直売施設(道の駅物産館を含む)の立ち上げ、再建、運営指導などを行い、長崎・佐世保・雲仙アンテナショップ「キトラス」の販路拡大コーディネーターや福岡市商店街活力アップ支援事業の手伝い、JA熊本直売所の運営アドバイス、限界集落での高齢者による地域づくり活動支援等を行い、全国的には地域活性化センター「全国地域リーダー養成塾」の講師やNPO法人全国街道交流会議の理事として歴史街道市町村の街道を活かしたまちづくりにも参加している。また、JICAで中央アジアや中南米の行政研修の講師も務める。太宰府市では「米づくり隊」「カンボジアに井戸を掘る会」「東北の酒を飲む会」等地域づくりを地域住民と共に実践している。九州・沖縄地域づくり会議顧問、九州国立博物館を愛する会アドバイザー、博多献上道中実行委員、スリートピアプロジェクト実行委員を務める。
鈴木 進悟	すずき しんご	特定非営利活動法人神岡町づくりネットワーク	廃線当時、旧神岡鉄道の廃線後に残された鉄道資産は、「町のシンボル・地元民のルーツ」であると地元の有志(当時の神岡鉄道協力会)らが、それぞれの持つアイデアを集結しました。自分たちの手で作った「乗って楽しい」乗り物を走らせることで鉄道資産を「そのままの形」で保存し活用したい、そして残された鉄道資産を取り巻く「町並み」を子供たちの世代に語り継いでいきたい…そんな彼らの想いに、釜山の町ならではの「モノづくりの精神」に溢れた鉄工所が設計図を引き、試行錯誤の末に完成したのがレールマウンテンバイク。地元住民の想いと技術が一体となって取り組んだこの「廃線エコプロジェクト」は、たくさんの皆様のお力添えを頂きながら、たくさんのお客様の笑顔をお迎えすることができるようになりました。

氏名	ふりがな	所属名称	取組概要
鈴木 達志	すずき たつし	NPO法人伊豆自然学校	<p>地域コーディネーターとして、農山漁村の地域における資源を有効活用した、持続可能な着地型体験プログラムを開発し、地域全体を巻き込んだ観光プログラムを確立させている。</p> <p>さらに、隣接市町との地域連携を図ることで、地域回遊も取り込んだ広域的視野の取り組みも行い地域活性化を目指す。</p> <p>NPO法人伊豆自然学校を設立し、地域住民と観光客との接点となるビジターセンターを運営し、インストラクター人材育成から安全対策研修会、六次産業化支援など様々な企画を実践している。</p>
鈴木 輝隆	すずき てるたか	立正大学経済学部	<p>山梨県甲州市勝沼町「榊中央葡萄酒」の戦略とブランディング 八王子市「TAKAO 599 MUSEUM」の建設プロデュースと運営協議会のコーディネート 北海道清里町「清里焼酎ブランド」形成や町の総合的ブランディングのプロデュース 青森県鰺ヶ沢町「タウンプロモーション」のプロデュース 北海道東川町「移住・定住促進」のポスターやパンフレット作成のプロデュース 愛媛県内子町石畳地区「小さな拠点を核としたふるさと集落生活圏形成推進事業」プロデュース 熊本県人吉球磨日本遺産活用協議会「日本遺産人吉球磨ブランドづくり推進事業」総合プロデュース 東京で、毎月1回、社会人と江戸川大学生などが共に学ぶ「ローカルデザイン研究会」を主宰、104回開催</p>
鈴木 泰弘	すずき やすひろ	小名浜まちづくり市民会議	<p>・小名浜まちづくり市民会議は、地域の各種団体30、企業、市民参加200名により、地域のタウンマネジメントを行っている。小名浜港アクアマリンパークの賑わいづくりでは港湾管理者との運営協定を締結し、年間250万人の交流空間として港を再生。中心市街地のまちづくりでは、商業の文化や地域の歴史を取り入れた活動を展開している。またいわき市のパートナーシップ協定により、行政と共同での地域計画作り、その進捗など官民が連携してのまちづくりを実施している。</p> <p>・小名浜美食ホテルは、港湾再開発事業としてスタートし公設民営の新しいモデルとして平成20年にスタート。食をテーマとした商業施設を開設させ、港のにぎわいづくりに大きく貢献している。津波と原発の風評にも負けず、平成23年12月にはたくましく再開を果たす。</p> <p>更に24年10月には、第2回SEA級グルメ全国大会を小名浜港に誘致しその開催に当たり、地域の元気を発信し続けている。</p>
曾我 治夫	そが はるお	(一財)運輸調査局	<p>新潟支社勤務時は新潟県内及び山形県庄内エリアの地域振興に向けて、地域の観光資源の掘り起こし、磨き上げを行い主として首都圏からの送客に向けた観光開発・商品企画を担いました。この経験を活かし、本社及び東京支社においては観光開発に向けた社内体制整備や送客側での体制整備の実務を担当するとともに、鉄道を利用した旅づくりを展開しました。横浜支社では特に伊豆・横浜エリアの観光開発に向けて、輸送事業者の責任者として地域の関係者の皆様とともに知恵出しを行い、様々な観光施策を展開し地域の活性化に努めました。現在は観光開発のほか、地域の公共交通機関についても活性化についての研究を進めています。</p>

氏名	ふりがな	所属名称	取組概要
高木 治夫	たかぎ はるお	京都フラワーツーリズム合同会社	<p>●世界のカメラ愛好家が「京都の魅力」を発信！ 背景：京都の花街は右肩下がり。 目的：花街文化の魅力の世界に発信し花街のファンを増やす。 具体的内容：『世界のカメラ愛好家』が自ら費用負担をおこないファンになり京都の魅力発信に貢献。 成果：シェアリングエコノミー時代の「三方よし」のビジネスモデルを構築した。この結果、持続発展や他地域への展開が可能となった。 1)カメラ愛好家にとって： ①撮影機会の提供、 ②作品発表の舞台を提供 舞妓さん自身が写真をチェックし肖像権をクリアオープンデータとして作品を世界へ公開</p> <p>2)花街にとって：花街文化を世界へ発信 舞妓さん応援ファンの拡大</p> <p>3)撮影会場にとって：会場の魅力を世界へ発信</p> <p>一眼レフを持つハイアマチュアの知恵やエネルギーを、心地よく楽しく、花街発展のために貢献してもらおう仕組みを実現できた！</p> <p>●オープンデータを活用できるシェアリングエコノミー時代のCMS「OpenMatome」(CMSの大革命)</p> <p>1)CMSの大革命 情報発信力を高めるために「記事作成」の生産性を革命的に高める。 スマホ時代になりながらCMSは依然として古いまま。 そもそもの概念をスマホやシェアリングエコノミーから組み立てた新しいCMS。</p> <p>2)記事のシェアリング お互いに記事をシェアして、それぞれのHPから発信。 記事作成の効率化と情報の拡散を実現。</p> <p>3)コンテンツ(個人の体験情報など)の発信力を高める 記事が多くHPで活用され、記事作成のモチベーションを高める。</p>
高橋 和勸	たかはし かずゆき	NPO法人 ワップフィルム	<p>映画という手法により「映画による地域力創生事業」、「地域コミュニティの連携」を提案。「映画」は多様な人々が関わるコトづくり、モノづくりであり地域映画は歴史文化、埋もれている地域資源(観光・産業・人・モノ・技術など全て含め)を掘り起こす、まちづくりと考えます。従来の商業ベースの映画製作では莫大な予算、制作意図も異なります。全て0ベースからの新しい地域映画製作を通じ、産業振興、基層文化の見直し、新たな創造価値を創出、地域の強みを発信し合うことで中小地域間連携、地域活性化に繋がります。</p> <p>I. 映画製作によるオープンイノベーション</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域と人と組織を繋げて活性化。 ・地域資源を活かし新たな視点で組合せることでイノベーションを生み出す。 ・映像作品活用の普及/指導(地域のPR映像など) <p>II. 地域映画×上映フューチャーセッションのパッケージ化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・まちを自分たちの手を変えていく、多様な参加者による対話の提供。 ・日本各地の自分たちのまちの未来へ置き換えて考え、対話、共創の中から協調アクションへの場づくりの提供。 <p>III. キネマフューチャーセンタープロジェクトの推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・商店街空き家、空き店舗問題、交通問題の解決。 ・コミュニティカフェ/コワーキングスペース/フューチャーセンター/まち中映画館として運営。 ・未来創造のための人事育成、産官学、地域(農工商)連携及び産業創出の場づくりの提案。
竹本 慶三	たけもと けいぞう	させぼ四ヶ町商店街協同組合	<p>郊外大型商業施設店舗に対抗すべく、アーケードでつながる百貨店と二つの商店街を「さくらシティ403」と名づけ一体的に活動するなど、商店街の組織化に尽力、まちを「出逢いと交流の場」にするため、大規模な市民参加型イベントを主催している。特に百万個の電球でライトアップする「きらきらフェスティバル」や27万人を集客する「Y osakoiさせぼ祭り」は全国的なイベントに成長した。その甲斐もあり佐世保の中心商店街は20万都市では「日本一元気な商店街」と言われるまでになっている。「まちを元気にする」講演・まちづくり指導に全国を飛び回っている。</p>

氏名	ふりがな	所属名称	取組概要
舘 逸志	たち いつし	国土交通省	平成18年～25年の8年間、北陸先端大にて地域再生システム論を開講。カリキュラムの作成、企画・運営に関わる。以来、大学を拠点とする産官学連携の地域活性化に関わってきている。具体的には、北陸先端大では、温泉地の活性化、伝統工芸と地域活性化、鳥取大では、地元出身の経済人の地域貢献活動の支援としての大山活性化講座の開講、熱海・湯河原では民間主導で県境を跨る広域的な地域活性化を進める取り組みを支援してきている。 内閣府の経済社会総合研究所においては、こうした大学の地域活性化システム論の展開を横断的に支援するためにカリキュラム研究会を開催、平成24年度には「地域活性化システム論カリキュラム研究会報告書」 http://www.esri.go.jp/jp/prj/hou/hou061/hou61.pdf を纏めた。平成20年からは、木村俊昭氏らとともに地域活性学会の発足に関わり、現在、同学会副会長、研究推進委員長、温泉・健康サービス部会長を務める。
田淵 正人	たぶち まさと	滋賀県愛荘町	<ul style="list-style-type: none"> ■観光振興・地域振興等に対する支援や指導、アドバイス <ul style="list-style-type: none"> ○観光地域づくり ○ニューリズム・着地型観光・体験交流型観光 ○観光振興計画・観光ビジョン等の策定 ○観光振興・地域振興・人材育成等の講演会や研修会、セミナー等の講師 ○プラットフォームや広域連携等の仕組み作り、強化等 ○人材育成(担い手・コーディネーター)や農家民宿開発等 ○着地型旅行商品や体験交流プログラム等の商品造成 ○第6次産業化、農商工連携 ■まちづくり・地域活性化・地域再生 <ul style="list-style-type: none"> ○地域活性化支援アドバイザー ○地域資源活用アドバイザー
近兼 孝休	ちかかね たかやす	株式会社琴平グランドホテル	<ul style="list-style-type: none"> ○国の重要文化財指定「旧金毘羅大芝居(金丸座)」で、春の歌舞伎公演を30回実現 ○国の重要文化財指定「旧金毘羅大芝居(金丸座)」で、秋の歌舞伎公演を2回実現 ○自社掘削の温泉を地元旅館に供給して「こんびら温泉郷」をつくる ○「こんびら温泉祭り」の開催 ○「石段マラソン」を実行委員長として開催
鶴田 浩一郎	つるた こういちろう	NPO法人 ハットウ・オンパク	NPO法人ハットウ・オンパクは、別府八湯地域において温泉を核とした様々な産業を起こす事を目的としています。この取組みを通じて実現したいのは以下の3点です。 1. 地域の資源(温泉、自然環境、町並み、人材など)を活かした多彩なプログラムの提供を通じて、各種のサービス産業が成長すること 2. オンパクに参加する事で住民が健康で前向きな暮らし(ウェルネスライフ)を送る事ができ、生活の質(QOL)の向上につながる事 3. 旅行者がオンパクに参加し、各種の体験や交流の機会を得る事で別府八湯のファンになっていただき、リピート化や長期滞在化を実現すること
寺井 良夫	てらい よしお	一般社団法人SAVE IWATE	<ul style="list-style-type: none"> ●まちづくりのコンサルタント 株式会社邑計画事務所では、主に岩手県内のまちづくりに関するコンサルタントを行っています。一方、仕事外でもまちづくりに関わるさまざまな実践活動に取り組んでいます。 ●被災地支援活動 東日本大震災を機に市民のボランティア団体「一般社団法人SAVE IWATE」を立ち上げ、理事長として物資支援、生活相談、心のケア、仕事づくり、学習支援、チャリティ活動など、幅広い支援活動に取り組んでいます。そのなかで、地域の埋もれた資源であるクルマを活用しての特産づくりが動き始めています。これからはとくに被災地での仕事づくり、新たなまちづくりに重点をおく考えでいます。 ●民俗芸能や伝統文化の活用 岩手に伝わる神楽、鹿踊、剣舞などの民俗芸能を地域の活性化に活用するため、「いわて民俗観光プロジェクト」を組織し、代表として民俗芸能のイベント開催や情報発信を行っています。また、北東北茅葺きネットワークを組織して茅葺き民家の保存活用を進めているほか、盛岡芸妓の育成にも取り組んでいます。 ●川の活用 盛岡の中心部を流れる中津川を活用したまちづくりのため、「NPO法人もりおか中津川の会」を組織し、事務局として川の清掃、川で遊ぶイベント、野の花の植栽、川の講座などを行っています。 ●交通対策 マイカーに過度に依存した社会からの転換をめざすため、「減クルマでまちづくり実行委員会」を組織し、事務局として各種の社会実験や啓発活動に取り組んでいます。これまでに実施した社会実験は、馬車の運行、パーチクの駐輪場化、自転車レーンの設置、バス路線の変更、モビリティマネジメント、雪かきスコープの設置、啓発資料の作成などです。また、岩手県全域の鉄道とバスの交通案内システムを開発しネット上でサービス提供しています。

氏名	ふりがな	所属名称	取組概要
刀根 浩志	とね ひろし	観光ビジネス総研	平成28年度事業紹介 <ul style="list-style-type: none"> ・沖縄県「沖縄観光課題解決プロジェクト」アドバイザー ・京都府、兵庫県「山陰海岸ジオパークセミナー」講師 ・和歌山県市町村組合 職員研修会「わがまちツーリズム創造セミナー」講師 ・農山漁村活性化支援人材バンク「地方創生セミナー」講師
殿村 美樹	とのむら みき	株式会社TMオフィス	PR(パブリック・リレーションズ)の基本コンセプトであるWin-Winのコミュニケーション概念を生かし、地域が自律的に活性化する仕組みづくりをプロデュースしています。 日本の地域には長い歴史と奥深い文化があり、どの地域にも必ず、世界に引けを取らない魅力が眠っています。ただ、その魅力を引き出すためには客観的な視点と時代のニーズを把握する視点、さらにはタイミングを見据えた情報発信技術が必要になります。 私はこれまで約30年間にわたり、約2,800件の実績を積み重ね、これらを成功させるノウハウを確立しました。
土肥 健夫	どひ たけお	株式会社 事業開発推進機構	一般的な商業集積、観光施設作り等に加えて、事業化・収益化が難しいと考えられている、以下のようなソフト事業の自立的な事業化に取り組んでおります。取り組みの“事業としての仕立て”を最も得手としております。 <ul style="list-style-type: none"> ・御当地検定：明石タコ検定(兵庫県明石市) ・食によるまちづくり：「鍋焼きラーメン」によるまちづくりと「浪花麺だらけ(大阪市)」、「新横浜ラーメン博物館(横浜市)」への出店支援(高知県須崎市) ・観光案内人、各種アクティビティ ・インストラクター等のプログラムを絡めた、伝統的建造物群保全地区における漁家民宿整備(京都府伊根町) ・地域活性化と連動したスポーツ・マネジメント(石川県金沢市等)
中村 隆行	なかむら たかゆき	特定非営利活動法人ひろしまNPOセンター	1997年に広島県域の中間支援組織として、立ち上げて以来①NPOに関する情報の収集提供事業、②共同事務所の運営、③NPO資源循環システム・資金助成事業としてNPO活動奨励賞、ろうきん寄付システム、ひろしまNPOサポート倶楽部などの仕組みをつくり助成事業を行う。④人材育成事業、⑤大学連携事業、⑥ネットワーク構築などを行っている。
中村 哲雄	なかむら てつお	一般社団法人葛巻町畜産開発公社	平成24年1月22日農林水産省東北農政局主催の農山漁村の地域活性化シンポジウムのパネラー、地域活性化講演実績、北海道東川町、七飯町、宮城県北6町の議会議員、涌谷町、山形県山形市、最上町、東京目黒区めぐろシティーカレッジ。大学関係では、お茶の水女子大学生、岩手大学生8回講義。葛巻町に来町した沖縄県名護市会議員、北中城村議会議員、千葉県印旛郡議会議員、早稲田大学院生、明治大学生、日本大学生、東北学院大学生などに地域活性化について講演。平成25年は山形県最上町、宮城県涌谷町、岩手県岩泉町、奥州市、神奈川県川崎市、東京都稲城市などで地域活性化について講演。平成26年は東京都、金沢星陵大学などで講演、来日したフィリピンの農林省若手職員に地域開発と地域活性化について講演、現地指導など

氏名	ふりがな	所属名称	取組概要
中山 哲郎	なかやま てつお	一般社団法人日本スポーツツーリズム推進機構	<p>スポーツツーリズム推進組織の設立支援、スポーツイベント・合宿誘致等の計画策定・アドバイス・国内外のビジネスマッチングを行っています。2019ラグビーワールドカップ・Tokyo2020オリンピック・パラリンピック・2021ワールドマスターズゲームスを控える日本に注目する世界に、地域をアピールする機会です。メガスポーツイベントを活用するとともに、それ以降の地域スポーツの在り方を構想する契機となっています。この時機を逃さず、スポーツによる地域イノベーションを起こす必要があります。</p> <p>★最近3ヶ年のスポーツツーリズム推進事業への関わり★</p> <p>2014年 北海道「スポーツ観光人材育成事業」アドバイザー</p> <p>2014年 沖縄県「スポーツコンベンション誘致戦略構築検討委員会」委員</p> <p>2015年 北海道オホーツク総合振興局「スポーツ合宿ブランド化推進事業」アドバイザー</p> <p>2015年 札幌市「地域スポーツコミッション調査業務」アドバイザー</p> <p>2015～16年 徳島県東みよし町商工会「小規模事業者地域力活用新事業全国展開支援事業」(経産省補助事業)アドバイザー</p> <p>2016年 千葉県銚子市「スポーツタウン構想」(内閣府地方創生交付金)アドバイザー</p> <p>2016年 栃木県矢板市「スポーツツーリズムアクションプラン策定事業」(内閣府地方創生交付金)アドバイザー</p> <p>2016年 北海道北見市「オホーツクサイクリングブランド化推進事業」(内閣府地方創生交付金)アドバイザー</p> <p>2016～2021年 関西ワールドマスターズゲームス2021組織委員会「レガシー創出委員会」アドバイザー・コミティメンバー</p>
納戸 義彦	のと よしひこ	NPO法人島の風 / 合同会社島の元気研究所	<p>■「古民家をリサイクルし、地域住民が運営するコミュニティ・ツーリズムを推進するプロジェクト」(古民家再生プロジェクト) ■「沖縄古民家再生職人養成カレッジ」 ■「農的暮らしキャンプ」 ■「住民による島の宝再発見事業『しまあかり』」 ■「風の学び地の学び『島塾』」(新規人材育成事業) ■「地産地創」(島の元気研究所)等、それぞれの事業は決して大きくはないが、それらを互いに力強くリンクさせることで「島を残し守り伝える」ことをミッションにした「開発に頼らない持続可能な島づくり」という大きな総論に根ざした事業構築をめざしている。</p> <p>地域活性化の戦略、メソッドが華やかな現在、あえて総論の議論に立ち戻り、地域に今必要な、あるいは次世代に引き継ぐために必要な「Something for Nothing」(何かのためではない大切なこと)といえる事業展開である。</p>
畠田 千鶴	はただ ちづる	一般財団法人 地域活性化センター	<p>■活動テーマ 地域活性化全般、自治体アンテナショップの運営、地域ブランド、地域プロモーションの講演、執筆、委員、アドバイザー、調査・研究</p> <p>■主な活動</p> <p>【講演・講義】官公庁、地方自治体、大学、民間企業、経済団体ほか ・財務省北陸財務局「北陸地域創生フォーラム」2016年11月29日</p> <p>・滋賀県商工会連合会「地域ブランド研修」2016年6月11日、8月23日 ・早稲田大学「立ち上がれ！早稲田大学地方創生フォーラム」2016年10月14日 ・自治体国際化フォーラム「海外自治体幹部交流協カセミナー2016(北京)」2016年11月9日ほか</p> <p>【アドバイザー、委員】地域ブランド、アンテナショップ運営(三重県、鳥取県、島根県、広島県ほか)</p>
服部 敦	はっとり あつし	中部大学工学部都市建設工学科 / 大学院建設専攻	<p>沖縄県北大東村、愛知県春日井市・名古屋・豊川市、三重県四日市市、長崎県などの各地のまちづくり・地域活性化のプロジェクトで、産業振興、景観形成、低炭素・超高齢社会対応などの観点から企画、マネジメントに従事。</p> <p>【主な取り組み】</p> <p>○沖縄県北大東村:総合計画・景観計画の策定、産地水産業強化の推進、文化的景観の保全・活用、伝統文化継承事業の推進など</p> <p>○愛知県春日井市:高蔵寺ニュータウンの活性、遊休化した小学校施設の活用など</p> <p>○愛知県名古屋市:遊休化した小学校施設の活用、運河周辺のアートによるまちづくりなど</p> <p>○愛知県豊川市:すごろくを用いた中心市街地活性化イベントなど</p> <p>○三重県四日市市:観光戦略の策定、観光まちづくりの推進など</p>

氏名	ふりがな	所属名称	取組概要
花井 恒三	はない こうぞう	奄美のトラさん	<p>①奄美と本土・沖縄の人材マッチング(ヒューマンネットワークウェア) ②本土・沖縄から奄美に住みたい・投資をしたい・貢献したい方、奄美を調査・研究・提言したい方、奄美で自分を極めたい、表現したい方(マドンナ、男性 含む)への奄美の入口案内ボランティア。</p>
平野 龍平	ひらの りゅうへい	富士急行株式会社 / 一般財団法人コレゾ財団	<p>数々の地域活性化や観光振興のお手伝いをさせて頂いている内に、言うだけで何もしない人が多いこの世の中で、自ら考え、行動を起こし、真っ当で当たり前なことをごく当たり前に続けている人たちこそ、貴重で、尊い存在であり、行動し続ける先にしか、結果は生まれず、成果は後からついてくるものだ、ということに気が付きました。</p> <p>いろんな地域のさまざまな事例を拝見してきて、成功事例や素晴らしい取り組み、活動に唯一、共通しているのが、魅力的な担い手の皆さんの存在です。</p> <p>「COREZO(コレゾ)賞」表彰事業は、そんな方々が一堂に会して、ウマイ食を食べ、ウマイお酒を酌み交わしたら、きっとおもしろいことが起こるだろうと思って始めました。</p> <p>「COREZO(コレゾ)賞」は、「権威なし」、「名譽なし」、「賞金なし」の三拍子揃った「三なし賞」の上、毎年、表彰式は、受賞者のおられる地方で自主開催して頂き、旅費、宿泊費は、自腹、飲食も参加者の持ち寄りなのに、既に4回実施し、延べ300名近い表彰者と関係者、賛同者の交流の場にもなっています。</p> <p>案の定、日常、交流することもない、分野も業種も職種も違う多士済々な皆さんが一堂に会することで、思いもよらない化学反応が起こり、主催者も知らないところで、いろんなコラボや協働等、おもしろいことが次々に始まっています。</p> <p>自分のような若輩者が「地域活性化伝道師」に認定され、何かアドバイスするなんておこがしく、先達の皆さんに対し、失礼に過ぎると自覚していますが、「COREZO(コレゾ)賞」他を通じて、数多くの皆さんとのご縁と人的ネットワークだけは、有しており、「人」と「人」のご縁をつなぐ役割は果たせるのではないかと考えています。</p>
平原 秀則	ひらはら ひでのり	平原建設株式会社	<p>例えば沖縄の慰霊地に奉納された千羽鶴。実はその最終処分方法は自治体の大きな悩みです。そこで、千羽鶴を再生紙として甦らせ、ノートや名刺の台紙などに製品化して慰霊地の記念品として販売。これを発展途上国の子どもたちの教育に役立てられています。</p> <p>また、千羽鶴の解体、仕分け作業を障害福祉施設の利用者をお願いし、工賃の向上を担っております。さらには、沖縄や広島への修学旅行の平和学習プログラムとして、千羽鶴の解体・仕分け作業のボランティア活動を組み入れるなど、人と人をつなぎ、地域とつながる方法を考えて来ました。また被災地支援では、北海道等で産業廃棄物に過ぎないホタテの貝殻を、牡蠣養殖の採苗用に被災地の被災障害者施設で加工し、広島等の養殖地に販売する取り組みを進めており、被災地の障害者の就労支援を通じて、人と人とのつながり、人と地域とのつながりを再生することを目指しています。</p> <p>直近の事例としては、平成24年8月、北海道の北広島市で、障害者支援施設を経営する地元社会福祉法人の地域貢献をコンセプトに、北海道と広島の酒造協会の協力の下、銘酒の試飲会のイベント「北の酒祭り」を開催し、地域住民の絆づくり、地域活性化のお手伝いをさせて頂きました。</p>
フィンドレー ロス アントニー	ふいんどれー ろす あんとにー	株式会社 NAC	<p>『通年型アウトドア体験観光カリスマ』 冬のスキーによる観光のみの北海道ニセコ地域にラフティングなど下記体験観光の魅力を付加し国内外からの観光客が集まる通年観光の地に変貌させた。また、「一般社団法人ラフティング協会」の設立に当初から参加しラフティングの安全性やサービスの向上を通じてラフティング人口の増加に寄与した。北海道のフィールドを活かしたアウトドアアクティビティを通して地域の魅力を引き出し、また地域の活性化につながるべとの思いで常に新しい視点で「楽しさ」を発掘しつづけている。</p>

氏名	ふりがな	所属名称	取組概要
藤崎 慎一	ふじさき しんいち	株式会社 地域活性プランニング	<p>◆「まちづくりはひとづくり」をキーワードに“よそ者、わか者、ばか者”を活用した住民参加型の自立型地域を目指す。一過性で終わらない継続的な活動を実現するために、ビジネス視点でのコーチングにより成果を上げていく。</p> <p>・【静岡県】「四季を通じて観光客を魅了する河津グルメ&魅力発信プロジェクト」 河津桜で有名な静岡県河津町は、桜の季節に観光客が集中し、それ以外は閑古鳥だったことが大きな課題だった。認知度の向上をめざし、地元住民が自発的に情報発信を実行する体制を作り上げた。ドラマ『孤独のグルメ』で紹介されたご当地グルメ「わさび丼」をきっかけに観光客が押し寄せ、ドラマ放送までわずか2軒だったわさび丼が食べられるお店が15軒に急増。聖地化されることになった。さらに地元の「わさび」そのものが見直され、わさびを使ったグルメ開発で、平成27年4月、まちおこし集団が株式会社化した。</p> <p>・【静岡県】「富士宮観光戦略プロジェクト」 またB級ご当地グルメがメジャー化する前に、富士宮やきそば学会が、ご当地グルメ「富士宮やきそば」を観光資源として活用すべく立ち上がった際に、講師として招聘。地域人材を活用し、「資源発掘→ターゲット設定」という手順で、地元グルメを活用した観光街づくり一体化に向けたプロジェクトを成功に導いた。</p> <p>・【大分県】ロケツーリズム推進協議会設立で観光客UP! 2014年に放送されたNHK大河ドラマ『軍師官兵衛』の影響により、同県中津市にある資料館に1年間で30万人もの観光客が訪れた。マスメディアへの露出が、観光に与える影響は大きなものであったが、県内にある市町村単位のフィルムコミッションや他関係団体が相互に連絡・協力を図る体制が確立できていなかったことから、「大分県ロケツーリズム推進協議会」を設立。ロケツーリズムの第一人者として招聘を受け、マスメディアの効果的な活用方法について、各団体に所属する職員へと向けた人材育成を実施した。</p> <p>・【千葉県】成田空港ブランド戦略会議 「成田空港をブランド化へと向けたPR戦略と、情報発信体制の造成アドバイザー」。 成田ブランドを伝える自立した情報発信組織「成田空援隊」を結成し、官民が一体となってロケ誘致を行いシティプロモーションへと繋げる仕組みづくりに導いた。また新たな特産品「成田ソラあんぱん」の開発に携わり、成田市女性職員を中心とした広報担当「成田ソラガール」を結成し、成田市のみならず都内、そしてアメリカ・ロサンゼルスでのPRイベントも成功した。</p> <p>・【東京都】「映像作品著作権活用ワーキンググループ」 映画やドラマの撮影実績を、まちのプロモーションに活用すべく、都内の行政担当者と一般企業へと向けた勉強会の開催。映像業界の現状と需要から交渉ノウハウまでを指導。</p>
藤野 龍一	ふじの りゅういち	株式会社里山ホテル／一般社団法人との森／里山資本主義フォーラム	<p>元々は健康保養センターだった施設を、里山体験に特化した施設へ生まれ変わらせつつ、来訪者に体験頂きたい地域の魅力の商品化を進めています。</p> <p>・世界初の空中キャンプサイト「マッシュルームキャンプ」を里山グランピング第一弾として2015年より提供。</p> <p>・市有の公園「ふるさとの森」の整備を進め、家族で自然や里山の環境を身近に感じて頂ける環境づくりとアクティビティを提案。</p> <p>・地域ならではの魅力を商品化するためのノウハウを共有し、ホテルスタッフによるブランド造成を推進。</p> <p>・里山資本主義の考え方に基づいた、地域経済参加型宿泊プランの開発。</p> <p>・茨城県北振興課主催の県北アウトドアプロジェクトを通じた地域振興への参画</p>
古庄 浩	ふるしょう ひろし	(株)古庄企画	<p>大手ホテルの総料理長、山形県庄内・食の親善大使、テレビ料理番組レギュラー出演、地域の食文化の講演会など経験豊富。</p> <p>「地産地消」。現在の主要流通ルートは、大量生産と大量流通を前提として組み立てられており、その中に小規模生産者も料理人の調理場も小規模販売者も組み込まれ、互いの連携や流通ルートを持っていない状況である。地産地消を、生産と販売だけの仕組みだけでなく、料理の現場と料理のノウハウと料理人のネットワークという視点を加えることにより、特にこだわりの小規模生産者に対して、生産方法や生産物の種類の考え方と新たな販路を協働で構築することが可能となり、商店街の店舗や飲食店舗は、大手スーパーにない独自色を出したメニューや品ぞろえが可能となる。地域の食材を使つてのフルコースディナー付き商談会の開催や、伝統的食材とその料理方法をプラスした直売所の運営などを通して、食材と料理と商店街が協働で行う地産地消の推進による地域活性化の取り組み。</p> <p>「新たな全国流通ルートの構築」。料理人の全国ネットワークの活用によって、料理人が推薦する食材を、料理人が推薦するレストランやスーパーで販売する、小規模な生産者と、料理人と、販売者やレストランの連携による新たな流通ルートの構築。「北前船ルートぼうさい朝市ネットワーク」の全国各地と連携する大阪圏のシェフを「蔵奉行」に認定し、ふるさと食材使った料理とその食材の販売を推進するシェフのネットワークを構築している(現在35名のシェフを認定)。</p>

氏名	ふりがな	所属名称	取組概要
古野 克彦	ふるの かつひこ	株式会社 にぎわい総合研究所	<p>「にぎわいをプロデュース」する会社をめざしています。</p> <p>今まさに、地域からの創生力と発信力、地域の暮らし方が問われています。地域の人々の生きがいづくりでの活性化、観光活性化、集客催事、景観づくりという地域創生の視点から見直しの必要性を感じています。新しい取組みを地域の人たちと一緒に創りあげ、地域内外の人たちが享受するために、誠実に実行できるチームをつくりあげて、楽しいプロジェクトしていきます。</p> <p>地域に根付いている資産を、新しい時代にあわせてリノベーションしていくことが、地域ブランドに繋がっていきます。</p> <p>自治体業務を中心に活動しており、愛知県の瀬戸市、安城市、豊川市、半田市、春日井市、稲沢市ほか、静岡県では、静岡市、袋井市、南アルプス山麓地域などにおける、観光活性化やブランド創生などの調査、企画、プロデュースに携わっています。</p> <p>また、市民グループにより立ち上げた「愛知戦国甲冑隊」は、総勢300人ほどの団体で愛知県内各地の地元催事などに出演し「にぎわいおこし」活動を続けています。</p>
細尾 勝博	ほそお かつひろ	地域再生研究所	<ul style="list-style-type: none"> ・都市農村交流を中心とした観光産業による地域づくりのコンサル・アドバイザー活動。 ・地産地消の仕事人として直売所の意義・目的・条件【12か条】・使命・価値観や共通課題についての解決方法など助言・指導。 ・ボランタリー・プランナーとしての6次産業化の認定承認や意欲的な事業推進による所得の向上や地域活性化推進などの指導。 ・豊かな自然や景観を持つ中山間地域での「2地域居住」推進 ・都市住民の「真の新しい心のふるさとづくり」・地域資源を最大限に活用した「ファン・リーダー作り」の助言・指導。 ・共生対流の交流イズムを駆使しながら「定住化促進」「地方再生」の道を「地域主体の交流づくり」を構築するための助言・指導。 ・都市農村共生・対流総合対策交付金の対象地区8地域のハード事業、ソフト事業の指導・助言。 ・全国各地からの要請により、アドバイザーとして年間40回以上講演及びワークショップ・シンポジウム等をコーディネーターやボトムアップ型町づくりを進めている。 ・国のアドバイザーや県の自治研修所の講師なども務めている。 ・「活性化伝道師」として、企業誘致を行うことによって新たな「都市・農村交流」が図られ、仕掛け作りを間違わなければ、永年続く事が認識できた。
堀田 誉	ほった ほまれ	(株)里山ホテル	<p>新しい里山と人とのつながりの模索と、里山資本主義の実現を目指した、宿泊施設の経営。</p> <p>主に、地域内の方々と連携した魅力の掘り起しや、地域と密接につながった社内組織づくりを展開し、自己理解・他者理解に基づく「自分たちで考える適材適所」プロジェクトやビジョン・ミッション・バリューに基づいた組織・人事制度などを構築。</p> <p>有志による里山資本主義フォーラム実行委員会メンバーとして、里山資本主義の深化や地域のネットワーキング活動にも取り組む。</p>
本田 勝之助	ほんだ かつのすけ	本田屋本店 有限会社	<ol style="list-style-type: none"> 1. 農業と食から実績を積んだ地域プロデュースの総合専門会社を経営。 2. 代表商品は「本田屋継承米(氏郷)」。肥料開発及び、生産管理、販売まで一貫して行っている。納入先には銀座久兵衛や金田中などの名店、京都伊右衛門サロンなどカフェレストラン等で使われている。 3. 全国各市町村への戦略的アドバイス、ブランドや商品開発、産業活性化への各種取り組みなどの要望に応え、地域との官民連携で戦略的にプロデュースしている。 4. 伝統工芸品のリブランド、商品開発。(Futradition WAOとの協業) 5. クリエイティブ:PR制作物(コピー、ポスター、リーフレット、映像、各種) 6. 観光やまちづくり、スマートシティ等のモデルづくり。 7. 日本遺産認定の全地域に対しての統括プロデューサー業務

氏名	ふりがな	所属名称	取組概要
前畑 洋平	まえはた ようへい	特定非営利活動法人J-heritage	<p><業務内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ・産業遺産を活用したツーリズム事業の開発・推進 ・産業遺産を活用したアートプロジェクトのプロデュース ・産業遺産を活用する組織の立上げ及びガイド等の人材育成 ・産業遺産を活用する人・組織のネットワーク構築 ・地域資源を活用した地域内外の交流推進 ・地域資源の発掘および活用するためのワークショップの実施 ・地域資源の戦略的な情報発信を行うための支援指導 <p><実績></p> <p>2011年11月 旧魚梁瀬森林鉄道100周年記念シンポジウム パネリスト 2011年12月 兵庫県鉱石の道シンポジウム 企画運営 2012年01月 姫路市産業観光受賞記念ツアーコーディネーター 2012年11月 魚梁瀬森林鉄道せまい線路サミット 企画協力 2012年12月 兵庫県鉱石の道ワークショップ 企画運営 2014年10月 八戸工場大学 講師 2014年04月 朝来市神子畑地区の産業遺産活用のため広報事業 企画運営 2014年11月 アートプロジェクト生野ルートダルジャン芸術祭2014 副実行委員長 2015年01月 大阪経済大学 産業遺産講座 ゲスト講師 2015年01月 鳥根県教育委員会 石見銀山勉強会にて活用について助言 2015年07月～ 鉱石の道ガイド育成事業講師およびコーディネーター 2015年07月 福岡県近代化遺産を活用した観光キャンペーン 企画協力 2015年08月 まちの魅力発見ワークショップ神戸港ワンダーマッピング 企画運営 2016年01月 甲南女子大学 産業遺産講座 ゲスト講師 2016年02月 泉南市まち記者養成講座 講師 2016年04月 摩耶観光ホテル観光活用プロジェクト 協力 2016年08月 浜田市 今福線活用について助言 2016年09月 姫路モノレールシンポジウム 企画運営 2017年01月 神戸大学 産業遺産の活用について講演 2017年01月 瀬沼観光レポーター・東京都大田区商店街町記者養成講座 講師</p> <p><メディア></p> <p>2010年04月 NHK「クローズアップ現代 廃墟」で活動を紹介される 2011年04月 月刊誌「ソコト」に活動を紹介される 2011年09月 建築ジャーナル「オビニオンの視線」に掲載 2012年07月 スカパーMONDO TV presents「ワンダーJAPAN TV 軍艦島SPECIAL」に出演(2013年07月日本コロムビアよりDVD化、日本ケーブルTV賞受賞) 2015年01月 NHK BSプレミアム「新日本風土記 廃墟」出演および制作協力(2014年度ギャラクシー奨励賞受賞) 2015年12月 BS日テレ「今すぐ行きたい絶景産業遺産2」制作協力 2016年12月 TBS「ニュース23」特集で活動を紹介される</p>
町田 直子	まちだ なおこ	特定非営利活動法人 ACTY / 株式会社ACプロモート	<p>NPO法人と株式会社にて地域ブランディング戦略による地域プロデュースをすすめています。NPOでは、環境省が設置した種差海岸インフォメーションセンターの運営管理、「みちのく潮風トレイル」の運営管理を担いながら、青森県ならではの地域資源を最大限にいかしながらブランディング化をすすめる、地域経済の活性化をすすめています。地元住民とのネットワークを構築し、地域が主体となり参画できるシステムを作っています。株式会社では、観光開発に力をいれ、着地型体験の旅行商品を造成し、漁業者、農業者、または三セク鉄道との連携によるプログラムを多数開発・販売しています。中心街にカフェを設置し、情報発信の拠点として、また観光客の拠点として運営をしています。カフェ事業部、、お土産品の販売、ツアーの商品化により、開発から商品化を一貫して行います。地域ブランド戦略による事業展開を進めています。</p>
松橋 京子	まつはし きょうこ	坐忘林	<p>＊ホテル・旅館の再生と立ち上げ(ホテル甘露の森＝北海道ニセコ町、みなかみ高原リゾート200＝群馬県みなかみ町、定山溪鶴雅リゾートスバ森の舘＝北海道札幌市、坐忘林ZABORIN＝北海道倶知安町花園)＊富裕層向け旅館のおもてなしオペレーションサポート＊北海道の素材を使った高品質の消費開発と「ものづくり」＊地域と地域をつなぐ視察や観光のビジネスモデルの構築</p>
水谷 翔太	みずたに しょうた	天王寺観光協議会	<p>○大河ドラマ「真田丸」放送に合わせた天王寺区内のまちづくりの推進 ○他、メディア、区政運営の経験を活かした講演活動、各種団体・地域のコンサルティング</p>

氏名	ふりがな	所属名称	取組概要
水野 正文	みずの まさふみ	郡上大和総合開発株式会社	1993年から古今伝授の里づくりに関わり、和歌文化の拠点施設「古今伝授の里フィールドミュージアム」をオープン。1999年「やまと温泉やすらぎ館」の立ち上げ、営業指導を行い雇用創出、福祉向上を図る。2001年「くつろぎ広場」、道の駅をオープンさせ、特産品開発、販売サービス、営業管理指導を行い、若者、女性の働き場を創出。2005年に東海北陸自動車道「ぎふ大和PA」内にサービス施設をオープンさせ、高速交通網を活かした特産品の販売拠点を整備。4施設を3セクが経営管理。その利益から順調に開発型インターの建設負担金6億9百万円を償還。2007年から国の地方の元気再生事業により「郡上長良川源流の森と川の恵み集落再生実証事業」に取り組む。国内では、三重県、福井県、徳島県、島根県、鳥取県、広島県等でまちづくり、3セクの経営、特産品開発、観光振興等の講演活動と共に現地研修受入指導、ベトナムにおける国道の道の駅管理運営指導を行う。 NPO法人コミシス郡上の監事として、福祉、教育活動を行う。 現在は、郡上市役所を早期退職し、まちづくりを行う第三セクターの代表取締役として、経営管理を行っている。
三宅 定子	みやけ さだこ	うの港(ホート)13(サーティーン)	平成19年7月、女性の視点から岡山県玉野市・宇野港の活性化や瀬戸内のみなとまちづくりネットワークの施策、瀬戸内の島々を訪れる観光客の集客を図るため異なる業種で活躍する13人の女性と共に「うの港13」を設立。平成19年～22年、岡山県へ緑地整備事業の施策を提言し、また観光事業に関する講演会やフォーラムを開催した。平成22年～平成23年、玉野市中心市街地活性化協議会みなと部会を設立し、宇野港の賑わい創出づくり・宇高航路フェリー問題を行政へ提言した。また宇野港の魅力PRするため手作り歴史散策マップ(日本語版と英語版)を作製した。平成24年～平成25年、九州地方、近隣県で地域の賑わい創出をテーマに講演した。平成27年、おかやまビーチスポーツ協会を設立し、会長に就任。ビーチスポーツを通じた地域活性化に取り組んでいる。平成28年1月、2018年国際ソフタ世界大会(横浜)大会委員長に就任。JNTO(日本政府観光局)等と協力し準備にあたる。平成28年3月～11月の「第3回瀬戸内国際芸術祭」の開催にあたっては宇野港「連絡船の町」をメインにアートのまちづくりを図った。
村上 和子	むらかみ かずこ	NPO法人神戸グランドアンカー	1)みなとの遊休倉庫の再生利用で、文化交流施設「神戸波止場町TEN×TEN」の企画運営。2)神戸港の親水ゾーンの人の賑わい創成へ向けた取り組み。3)瀬戸内みなとオアシスの活性へ向けた取り組み
望月 孝	もちつき たかし	株式会社プロジェクト地域活性	東北地域において、地域の人財育成・確保、農工商連携等6次産業化・地域ブランドの推進、観光・ツーリズムの推進等、地域の「人財」を核にして地域活性化を支援しています。現在、東日本大震災からの復興農工商連携等6次産業化による地域の活性化に重点を置き、東北地域の6次産業化を担う人財を育成・確保する『6次産業化プロデューサー育成塾』『東北のムラで働き隊！プロジェクト』等の取組みを実施しています。
森賀 盾雄	もりが たてお	愛媛大学	長年、市行政の内部と外部を結び、研究会や市民団体を組織して、地域づくり・産業おこしに取り組んできた。それらの成果を生かして全国で講演・地域づくりの支援・アドバイス・企業社員研修等を行ってきた。とりわけ地域資源を活かした地域づくり・人材づくり・産業遺産の活用・産業観光・NPO活動で実績を残している。市職員から大学教授になり教育・研究を進めており、環境・農山漁村の地域再生や起業論をも対象とした幅広い分野での対応・取組となっている。テーマとしては「地方工業都市の産業文化創造都市への発展」「産業遺産を活用した地域づくり」「これからの地域づくりの主体形成とマネジメント及びマーケティング」「地域起業マネジメント」等である。愛媛大学での「紙産業修士コースの創設」社人「地域マネジメントスキル講座」のを開設で中心的役割を担い、後者では150名の受講修生を愛媛大学地域再生マネージャーとして送り出している。2014年度からは愛媛大学地域再生マネージャーのさらなる学びのための「地域再生塾」、「須崎未来塾」、「いはいま未来創造塾」の塾長として講座を超えた「私塾の実践的人財づくり」を精力的に取り組んでいる。

氏名	ふりがな	所属名称	取組概要
森田 潔	もりた きよし	一般社団法人 神戸港振興協会	<p>①地域の様々なイベントの実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・神戸港カッターレース～横浜・大阪・広島・南淡町・豊岡市など ・全国のカッターレースに実施要領を提供し各地で開催されるようになった。 ・メリケンフェスタ、みなとこべ海上花火大会、Kobe Love Portみなとまつり、KOBE みなとマルシェ、波止場まつり、神戸港フォークリフト荷役技能向上大会、神戸まつりヨットレース、神戸港ポート天国、ロープワーク教室、ボトルシップ教室、市民クルージング、体験航海、進水式見学会など <p>②産業観光への取組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コーディネーターとして案内したり、旅行商品となりうるものの発掘 <p>③クルーズ客船や帆船の入出港の歓送迎や船内一般公開の実施</p> <p>④海事人材の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県下の小・中学校への出前授業や船を使った海上からの港の見学等
矢口 正武	やぐち まさたけ	NPO法人 元気・まちネット	<p>多くの地方は少子高齢化によって過疎化が進んでいます。</p> <p>元気・まちネットは、そうした過疎に悩む地方から、相談を頂ければ出かけて行き、地元の皆さんと膝を交えてお話をし、その土地にまつわる歴史・文化を掘り起こし、その土地ならではの活性化に寄与出来ればと考えています。</p> <p>また、スポーツイベントの開催にしても協会や連盟などに登録しなくても可能なローカルルールを考案・構築して、地元の方々も一緒に参加出来る、楽しめる企画を考案出来ます。</p>
山下 雅司	やました まさし	有)ヤマイチ山下総業/独)中小機構基盤整備機構北海道本部	<p>(1)全国商店街支援パートナーとしての受託業務</p> <p>①トータルプラン作成支援事業(プランづくりコース)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・網走中央商店街振興組合(平成25年度～平成26年度) ・栗山駅前通り商店街(平成26年度) ・根室市緑町商店街振興組合(平成27年度) <p>(2)経済産業省補助事業に係わる調査事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成26年度北竜町商業自立促進調査分析事業(ニーズ調査) ・平成28年度根室市地域まちなか商業活性化支援事業(ニーズ調査) ・平成28年度森町地域まちなか商業活性化支援事業(ニーズ調査) ・平成28年度斜里町伴走型小規模事業者支援推進事業(ニーズ調査) <p>(3)道の駅に関する経営診断</p> <ul style="list-style-type: none"> ・真狩フラワー振興公社・美深町双子座館(実態調査)滝川市・中札内村・大樹町・忠類村 <p>(4)地域振興計画の策定</p> <p>清水町・北竜町・余市町・芦別市・栗山町・初山別村・幌加内町他</p>
山下 真輝	やました まさき	株式会社ジェイティービー 旅行事業本部 観光戦略室	<p>これからの「観光」は、異業種・異分野の人びとや様々な産業を融合することによる新しい価値創造の「場」として、取組まなければならないと考えています。新しい時代の観光振興は、宿泊施設、交通機関、観光施設等の狭義の観光産業による観光振興ではなく、様々な分野の産業を連動させ、現代社会の消費者が求める価値をつくり出すための連携の場をつくり出す必要があり、地域の未来を考えている住民の方々とのワークショップやセミナーを通じて、地域の目指すべき姿や観光地域づくりのコンセプト探しを行います。更には地域のコンセプトに沿ったシティプロモーション戦略、着地型旅行商品づくり、地域資源の6次産業化など観光を基軸とした地域活性化に取組んでいます。最終的に様々な事業を推進するリーダーシップ人材の育成が不可欠であり、立場や自分の利害を超えて行動することができる観光地域づくり人材の育成もサポートさせていただきます。全国各地の観光地域づくりに関わってきた経験と常にマーケット動向を見ている旅行会社の視点を持って、地域活性化に取組んでまいりたいと思います。</p>
山田 桂一郎	やまだ けいいちろう	JTIC.SWISS	<p>これまで北海道から沖縄県の離島まで全国各地のあらゆる地域振興や活性化に関わってきました。特に、住民主体の地域経営組織の立ち上げと運営や民間事業として様々なビジネス化による収益事業で成果をあげています。基本は全て「自立」と「持続」です。</p> <p>政策、施策、事業化には地域経営の視点を重視しています。どれだけ良い計画やデザインであったとしても人間社会の「エゴ」と「利害」により全てが崩壊することがありますが、それさえも乗り越えてきました。</p> <p>多くの地域で、行政の単年度やりっぱなし事業で地域が疲弊疲労している現実があります。地域住民も何をやって良いのか全くわからない場合もあります。それ以上に目の前の生活に困っていない人もいます。</p> <p>この様な状況から脱出するためには、地域の問題、課題を自分事として住民が認識することが重要であり、住民が根本的な解決と共に自らの未来を切り開く活動に取り組む必要があります。学問や机上の空論の世界ではなく、日々現場で地域の生き残りを皆さんと一緒に真剣に考え、実践しています。</p>

氏名	ふりがな	所属名称	取組概要
山田 辰徳	やまだ たつり	新城市地域おこし協力隊／新城スポーツツーリズム推進実行委員会	<ul style="list-style-type: none"> ■新城市地域おこし協力隊に着任(H26) ■H26年10月:「新城スポーツツーリズム推進実行委員会」結成／Da MONDE(ダモンデ)誕生 ■H27年2月:第1回Da MONDE TRAIL Challenge(参加者実数270名) ■H27年5月:第2回開催(350名) ■H27年10月:第3回開催(420名) ■H28年1月:日本初となる愛知県所管の遊休施設／廃校(旧鳳来寺高校)を利用した自転車レース「スクールクロス」を開催(350名) <p>※専門分野だけでなく一般ニュースソースとして、新たな遊休施設の利活用方法の提案として大きな注目を集め、NHKを代表に各局TV取材、Yahoo!ヘッドラインニュース、各種地方紙、Webニュース媒体への掲載多数。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■H28年5月 第4回となるDa MONDE TRAIL Challengeを開催予定
養父 信夫	ようふ のぶお	一般社団法人九州のムラ	<p>“ムラの命をマチの暮らしに、マチの力をムラの生業に”を理念に、この18年間、都市農村交流をプロデュース。主な取り組みは</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 雑誌編集長として地域の情報を発信。(「九州のムラ」「九州のムラへ行こう」を経て「Nippon / MURA」へ。 2. 観光地域づくりによる地方創生コンサルティング。地域おこし協力隊の導入(約50名)も組み合わせ、新たな観光、食の六次化などを地域に展開。 3. 民間企業を地域に繋げていくプロジェクト。トヨタ自動車の「Gazoo mura」や福岡地所の九州のムラ市場、キューデンインフォコミウの九州ムラコレ市場 など 4. 九州グリーンツーリズムシンポジウムの主催など GT実践者たちの集まり。 5. SNSを活用した地域の情報発信 FB2500名、メルマガ約5000人
横田 純子	よこた じゅんこ	特定非営利活動法人 素材広場	<p>宿を生産者をつなぎ地産地消を推進することで観光産業の循環による地域活性を目指す。観光集客を基軸に宿の企画を行い、宿に生産者の思いを見せる。「宿の企画」「生産者の情報提供と調整」「必要品の納品」「素材の受発注」「請求書管理」までを一貫で行う。</p>

氏名	ふりがな	所属名称	取組概要
吉井 茂人	よしい しげひと	長浜商工会議所／長浜まちづくり株式会社	<p>昭和53年・57年の広域商業診断を担当。 昭和60年・平成3年に商業近代化地域計画や市街地核再生プロジェクト構想(曳山博物館建設)を担当する。 昭和62年より各商店街のCI事業、将来計画策定をすると共に、各商店街ハード・ソフト事業の具現化に携わる。平成9年度 空き店舗対策モデル事業・プラチナプラザ立ち上げ。平成10年度からは中心市街地活性化基本計画、TMO事業構想策定および事業の具現化を図る。平成16年～平成19年3月まで大型空き店舗活用「まち家横町」開設運営。 平成18年度より改正まちづくり三法対応に取り組み、平成20年1月に中心市街地活性化協議会設立、運営を行なう。 平成21年4月よりまちづくり会社設立準備室において作業を進め、平成21年8月10日に「長浜まちづくり株式会社」を設立。平成21年～23年、中心市街地活性化事業支援。 現在、長浜駅周辺整備地区計画策定に地元の人と取り組んでいる。 昭和59年から全市的なイベントに係わると共に昭和62年～平成2年 長浜総おどりのプロデュースを行なう。商工会議所入都以来、賑わい創出のイベントを仕掛ける。多種多様な事業の具現化により、今ではゼロから200万人の人々に来ていただけるまちなに変化した。また、商店街内の80件余りの空き家、空き店舗の活用が生まれた。 過去の中心市街地は雑多な複合機能が有り、ヒトとモノとコトと情報の集積場で都市魅力を備え繁栄していた。しかし、郊外開発が進んで郊外への重心移動が始まったことで中心市街地は単一機能となり、徐々に衰退傾向となった。大型店の出店申請が重なり中心市街地は死んでしまうのではないかという危機感が生まれた。官民ともに何とかしなければという気運が高まった。 現状の打開には方向性を示すプランが必要で、プラン策定には垂直型から水平型思考への転換が必要であった。絶えず都市活性化という視点を持ち、時代の節目節目に方向性の計画を示すと共にプラン具現化の仕掛けを行い、また現場に出ることによって地元の人々と意思疎通を図り、イベント・CI事業・商店街毎のプランそして事業の具現化を順次図った。それらの事業は黒壁のダイナミックな事業展開との相乗効果を生み、点・線、そして面的な広がりのある環境整備ができた。 中心市街地の環境基盤整備とイベントを中心とした賑わい創出事業を生み出すことにより入り込み客数は飛躍的に増加し(ゼロから200万人)、中心市街地の空き家・空き店舗の80件余りがショップや施設に転換された。 平成24年4月からは北大路魯山人ゆかりの歴史的建築物安藤家の管理運営を行なうと共に伝統的町家を長浜バイオ大学まちなか拠点施設として開設を行なった。さらに賑わいを持続させるために様々な事業に取り組んでいる。 平成26年からは、中心市街地内の伝統的木造家屋活用のシェアハウス運営を行なっている。</p>
吉井 靖	よしい やすし	株式会社うぶすな	<p>現在の役職・肩書 ●内閣府 地域活性化伝道師 ●内閣府 クールジャパン地域プロデューサー ●総務省 地域力創造アドバイザー ●東京商工会議所 中小企業国際展開アドバイザー ●一般社団法人 日本イベントプロデュース協会 参事 ●社団法人 日本イベント産業振興協会 認定 - イベント業務管理者一級○民間企業アドバイザー : 富士ゼロックス西日本株式会社、富士ゼロックス北日本株式会社 ○総務省地域力創造アドバイザー派遣先： 秋田県能代市、秋田県三種町、秋田県男鹿市、秋田県秋田市、山形県長井市 ○「佐渡、お笑い島計画」佐渡に新たな観光客層を呼び込むべく、「お笑い芸人」を佐渡に半年間滞在させ、毎日佐渡情報を収集し、動画とブログでインターネット上に発信するプロジェクト。2005年から07年の3年間実施し、google検索「お笑い」で吉本興業を抜き、25位にポジショニングし、地域コンテンツとして圧倒的に見られるサイトとなる。 ○07年新潟中越沖地震で佐渡に風評被害が起き、早期の解決を図るべく「元氣です! 佐渡キャンペーン」と題して佐渡島民100人の生の声をネット動画で配信。1月間で約2万人が閲覧。 ○地域商材として、佐渡海洋深層水を使った有機農法米「海 舞・umai」をブランド開発。5k 5000円の高価格帯ながら年間1000パックをネット販売するヒット商品となる。 ○秋田市観光アドバイザーとして、市民参加型観光サイト「アキタッチ」を開発。閲覧者数を一年で2倍にする。「JWDA Webデザインアワード」審査員特別賞受賞。 ○岐阜県「BRASIL GIFU 多文化共生プロジェクト」は、在日ブラジル人と日本人が相互理解を深め、共生できる社会を目指す地域に根ざした先進的な取り組みとして、「デジタル・コンテンツ・オブ・ジ・イヤー'11/第17回AMD Award'11」の「リージョナル賞」を受賞。</p>

氏名	ふりがな	所属名称	取組概要
吉富 慎作	よしとみ しんさく	特定非営利活動法人 土佐山アカデミー	<p>■特定非営利活動法人土佐山アカデミーの取組み</p> <p>土佐山アカデミーは「次の100年のために、新たな出会いやアイデアを生み出す学びの場づくり」というミッションを掲げ、5つの事業ドメインを展開し、年間を通して開催している短期・長期ワークショップや研修には事業開始から延べ9,800人以上が受講しています。</p> <p>【TOSAYAMA ACADEMY(循環型の生活を地域の方から学ぶワークショップ群)】は、日帰りから3ヶ月滞在型プログラムまで、地域の課題を資源と捉え、それに基づいた年間12本以上のワークショップを展開。</p> <p>【土佐山ワークステイ(中長期滞在支援サービス)】都会の方に「家を貸し、車を貸し、コネを提供する」土佐山に滞在し、土佐山のための仕事をする方へのプログラム。</p> <p>【EDGE CAMP(中山間地域特化型起業家養成プログラム)】「雇用がないだけで、仕事はある」。地域での仕事の作り方を6ヶ月間かけて仲間と共に学んでいくものであり、日本財団より補助を得て実施している。</p> <p>【TOSAYAMA Creative Camp(企業・団体研修)】平成27年から実施。地域の課題を研修教材へと編集し、地域おこし協力隊の研修のみならず、高知県庁、大手企業本社等からの人材育成研修を行っている。</p> <p>【コンサルティング サービス】企業の事業企画、他地域の地域づくり、交流人口増加のためのコンサルティングや行政の委託事業受注等。</p> <p>■受賞歴 2014年環境省グッドライフアワード 環境と学び特別賞 2016年農林水産省 オーライニッポン大賞受賞</p>
吉見 精二	よしみ せいじ	地域観光プロデュースセンター	<p>「地域は観光に頼らなければやっていけない！」とも言われています。とくに、地方は人口減少など直面する課題、時代の流れをどう受け止めるのか。しかし、地方には「文化がある自然がある」ことを活かした成功事例が多く見られます。全国のどこの地域でもがニュー観光地となる可能性があります。観光の魅力は人との感動の交流です。地域の人たちが主役になる観光が「ほんもの旅」です。みなさんの地域には宝物が溢れています。いっしょに探してみませんか。ニューツーリズムを通じて地域が元気になるお手伝いをいたします。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域交流事業支援アドバイザー～地域観光創造・着地型観光実践ドウタンク ・地域力創造支援アドバイザー～まちづくり・地域活性化・地域の元気再生 ・DMO組織化支援コーディネーター～地域の新しい観光戦略にDMOの構築
萬谷 正幸	よろずや まさゆき	山代温泉観光協会	<ul style="list-style-type: none"> ・「団体遊興型観光で全国に名を馳せた」温泉観光地から、「個人・時間消費型観光」に対応した地域づくりを図るため、旅館施設の一部開放事業の推進、空き旅館・空き店舗対策事業を同氏自ら率先して着手した。空き店舗対策として開設した同氏自ら運営している「べんがらや」は、地域の活性化事業の範となっている。また、2003年(平成15年)12月には、「山代温泉新CIコンセプトブック」を7年後の2010年12月に「山代温泉第2次CIプロジェクトの骨子」を策定し、3年後の北陸新幹線開通に向けた山代の魅力づくりの為の3つのテーマを掲げ、新たなゴールを目指して山代温泉のブランドイメージの確立に尽力している。 ・平成23年3月には、山代温泉のかねてからの懸案であった街の中心街である「湯の曲輪・総湯・古総湯」整備が完了。新たな事業展開の局面を迎えた。 ・平成27年3月には、待望の北陸新幹線金沢開業を迎え、首都圏からの需要拡大の機会を迎え、地域住民による「おもてなし力」のレベルアップ、中心商店街の活性化策の検討、交通インフラ・情報インフラの整備促進等の推進を図っている。

氏名	ふりがな	所属名称	取組概要
若松 進一	わかまつ しんいち	人間牧場	<p>双海町役場に在職中、瀬戸内海に沈む夕日に着目し、日本で一番海に近いJR下灘駅で開催した夕やけプラットホームコンサートが話題を呼び、夕日をテーマにした数々のまちづくりを行なった。海辺の海岸を埋め立ててシーサイド公園を整備した。450mの人工砂浜、特産品センター、夕日のミュージアム等には、年間55万人の観光客が年間を通じて訪れている。</p> <p>第三セクターを設立して運営しているが開業以来黒字経営をしている。</p> <p>海岸国道を「夕やけこやけライン」と名付け、町のキャッチフレーズも「しずむ夕日が立ちどまる町」として積極的にまちづくりに取り組んでいる。</p> <p>海岸国道沿いには水仙や菜の花が咲くなど地域ぐるみで花咲くまちづくりを展開している。</p> <p>JR予讃線にこの夏「伊予灘ものがたり」という観光列車が走る予定である。</p> <p>まちづくりを推進する「まちづくり学校双海人」も活動している。</p> <p>年間100日以上全国各地へ出向き講演や指導に当たっている。</p>
渡邊 賢一	わたなべ けんいち	一般社団法人 元気ジャパン ／ 株式会社XPJP	<p>2011年 経済産業省クールジャパン・フランス事業総合プロデューサー ：パリにヴィラージュ・ジャポンを開設し、地域資源のプロモーションを展開。</p> <p>2012年 経済産業省クールジャパン・インド事業プロデューサー ：インド・ディズニー、カートゥーンネットワークと連携しキッズ事業をプロデュース。</p> <p>2013年 経済産業省クールジャパンの芽事業プロデューサー ：アメリカ、フランス、イタリア、ベトナム、インド、インドネシアにて地域企業の海外展開マッチング事業を展開。パリではアラン・デュカス氏他の世界の料理人と連携したローカル・プロモーションを実施。</p> <p>2015年 内閣官房クールジャパン有識者委員 ：ローカル・クールジャパン政策を推進。佐賀県有田焼400周年記念ARITA×NOBU事業総合プロデューサー ：世界的料理人NOBU氏と連携したオリジナル有田焼を7つの窯元と連携して制作し、ロンドンにてレセプション、商談を開催。欧州展開を実施。</p>
渡邊 法子	わたなべ のりこ	アイ・エス・ケー合同会社	<p>地域特性を活かしたまちづくり(地域資源の再発掘・活用) 地域の人材発掘、育成地域の主体性を核にした自立型、持続型のまちづくり事業 着地型観光事業(基盤の整備構築) ローカルエリアプロモーションビジネスの事業化 インバウンド(訪日)観光事業</p>